
IV 医学部看護学科

1 教育・研究の理念・目標等

1. 教育・研究の理念と目標

近年の医療・福祉を取り巻く環境の変化に対応し、多様な社会的要請に応えるため、21世紀の医療に向けて、豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する知識や技術を修得・発展させる能力や、地域に即した保健医療活動の中心的役割を果たすことのできる資質の高い看護職を育成することを目的に以下のディプロマポリシーを設定している。

- ① 人々の尊厳と権利を擁護できる能力
- ② 総合的・全人的に人間を理解する能力
- ③ 自主性と創造力をもち、主体的に判断・実践できる問題解決能力
- ④ 看護専門職として看護の質の向上を目指し、継続して専門的能力の向上に取り組んでいける能力
- ⑤ 看護の役割を認識し、保健医療福祉における協働と連携をする能力
- ⑥ 国際的な視野と地域医療への貢献を視野に入れた看護を発展できる能力

2. 教育・研究の活性化と充実の経過

急速な少子・高齢化による人口構成の変化、疾病構造の変化、また人々の健康への関心の高まりなどにより、医療を取り巻く社会環境は著しく変貌してきている。慢性疾患や老化による障害を抱えて生活する人々が増加するにつれ、療養生活の質、生命の尊厳の本質が改めて問い直されるようになった。このように拡大し複雑化する社会的ニーズに応じていける看護者を育成するには、豊かな感性と深い倫理観に裏付けられた人間性、専門的知識・技術と実践力を備え、問題解決能力、また、国際的な視野と地域医療への貢献を視野に入れた看護を発展できる能力を身につけることが課題となる。

このため1年次生から医療・看護への関心を高めるため、初期体験実習や総合科目（医療と生命）、また、医学概論は医学科学生との合同授業を開講している。また、専門教育の基盤となる教養教育は1、2年次に全学部生を対象とした全学共通教育を受講する。

問題解決能力、主体的に学習する能力育成のために、少人数によるグループワークを積極的に取り入れている。保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改定に伴い、平成24年度からカリキュラムを改正し保健師課程を選択制とし、看護師課程の卒業要件単位数を133単位から127単位に変更した。また、それと同時に英語教育の充実を図り1・2年次に教養科目として履修する英語に引き続き3・4年次に基礎科目として医療英語3科目（3単位90時間）を新規に配置した。これにより、英語教育を一層系統的に行えるようにした。

3. 教育・研究の将来構想

(1) 基本理念

わが国における医療・福祉の状況は、近年大きく変化している。医学の進歩と医学を取り巻く諸科学の発展、さらに急速な人口減少などの社会環境の変化に伴い、医療の世界も多様化し、治療とともに援助サービスが重視されるようになってきた。医療における看護の役割は、今後さらに拡大・複雑化していくことは明らかであり、豊かな感性と人間性を備えた資質の高い看護職の育成が不可欠となる。

これらの社会的要請に応えるため、日々進歩する医療の知識・技術に対応し、さらに発展させる能力を持った人材、地域の実情に即したきめ細やかな保健医療活動の中心的役割を果たせる人材を養成するとともに、看護教育及び研究・研修の拠点となり、生涯学習に貢献することのできる、社会に開かれた看護学科を目指すことを基本理念とする。

(2) 教育体制

現代の医療は、治療水準の向上とともに、あらゆる健康レベルの人々を対象とした、保健・医療・福祉が連携した良質できめ細やかな援助サービスが要請される。医療における看護の責任は今後ますます重く、社会の要請に応えるためにディプロマポリシーを踏まえた上で、将来的に次のような内容を担える人材の育成と学問的基盤の確立を目標とする。

- ① 全人的医療を担い得る豊かな感性と人間性を備えた人材
- ② 高度医療の一環を担い得る資質の高い人材

- ③ 保健・医療活動に指導的役割を果たせる人材
- ④ 看護学における学問的基盤を確立できる人材
- ⑤ 広い視野を持ち、国内外で活躍できる人材

医学部医学科および医学部附属病院との緊密な協力体制を築き、養護教諭 1 種免許取得のための教職課程では総合大学としてのメリットを十分に活かした教育を行っていく。「健康」を視座にすえた統合カリキュラムで育った問題解決能力や判断能力、応用能力のある人材の育成により、地域で保健医療に係わる人々とともにケアチームを作り、生涯学習を続けていける体制整備を目指す。

(3) 研究体制

看護学の研究は、関連諸科学との連携、特に保健・医療分野との共同研究は必須である。臨床、地域における看護職との研究は看護の研究の本質的意義を有するものであり、各講座、分野の特色の中で推進していく。看護の対象や役割の拡大により、健康支援や生活への援助から、教育・福祉・経済・情報などと連携していく必要性が高まっている。総合大学のメリットを活かし、学内外において関連する学問分野、他の専門職との連携を密にすることで学際的かつ効率的な共同研究を推進していく。また、大学院修士課程（看護学専攻）ではより高い専門性を追及した教育・研究の充実を図っている。

2 教育活動

1. 学生の受入れ

(1) 学生募集の方法

- ① 学生募集要項及び入学選抜に関する要項については、学務部から全学一括で県下高等学校を中心に郵送配布するとともに、希望者に対しては学務係から直接又は郵送で配布している。
- ② 看護学科紹介パンフレット「岐阜大学医学部看護学科案内」を作成し、大学紹介（オープンキャンパス、プチ・オープンキャンパス）を参加者に配布している。また、パンフレット希望者には郵送配布の対応を行っている。
- ③ オープンキャンパス、プチ・オープンキャンパスにおいて、看護学科長による看護学科の概要説明並びに各講座が企画する模擬実習等を体験するだけでなく、在学生による相談会や医学部看護学科教務厚生委員と広報・情報処理委員長による進学相談を行っている。参加者からのアンケート内容は、広報・情報処理委員会における次年度以降の計画立案の参考としている。
- ④ 看護学科全教員が 6～8 月にかけて岐阜県・愛知県を中心に高等学校を訪問し、パンフレットや募集要項を手渡すだけでなく、看護学科の紹介及び進路指導担当の教諭と情報交換を実施している。
- ⑤ 私塾主催の入試説明会への教員派遣や、高等学校への「出前講義」、看護学科への高校訪問の受け入れについて積極的に取り組んでいる。

(2) 入学選抜の方法と方針

前期日程および後期日程の一般入試に加え、センター試験を課さない推薦入学 I 特別入試と社会人特別入試を設定している。また 3 年次編入学試験も実施している。入学試験の定員数は、それぞれ次表のように定めている。

試験	募集人員
推薦入学 I 特別入試	10
社会人特別入試	3
一般入試（前期日程）	47
一般入試（後期日程）	20
3 年次編入学試験	10

看護学科では、次のアドミッションポリシーを定めて公開している。

【教育目的】

看護学科は、看護学をはじめ保健・医療・福祉の各分野に貢献できる人間性豊かで倫理観に富む資質の高い看護の専門職を養成するとともに、看護学の教育研究の推進も目指します。

【求める学生像】

人を愛し生命を尊び、全ての人々の健康の向上に寄与する看護職を育成するために以下のような学生を求めています。

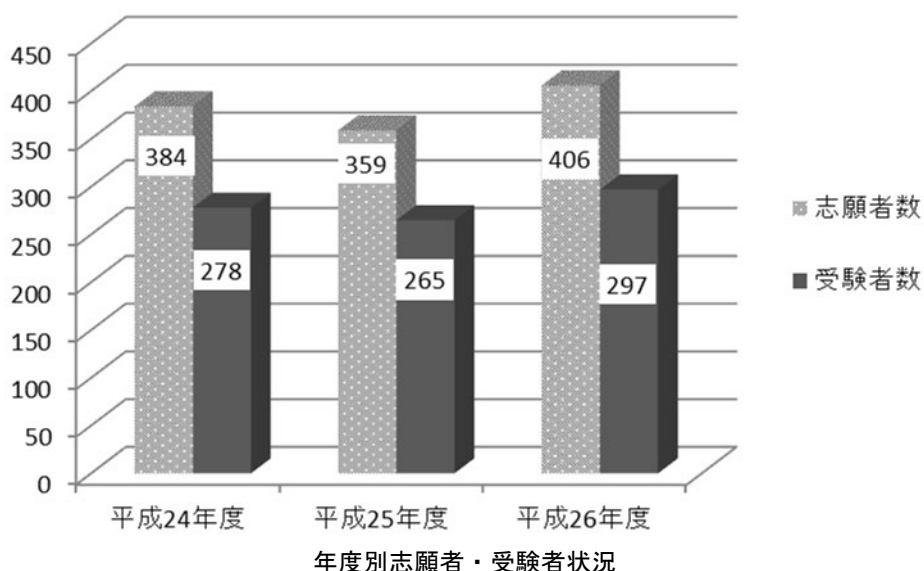
- ①看護への関心があり、看護学の修得に必要、かつ、十分な基礎的学力を有する人
- ②様々な現象に対して、あらゆる角度から観て考え、真実を知ろうという科学的探求心に富み、自己学習意欲が旺盛である人
- ③他者の意見を傾聴し、その気持ちを理解できるように努め、自己の意見を表現できる能力を持っている人
- ④自己の心身の健康に留意し行動できる力を持っている人

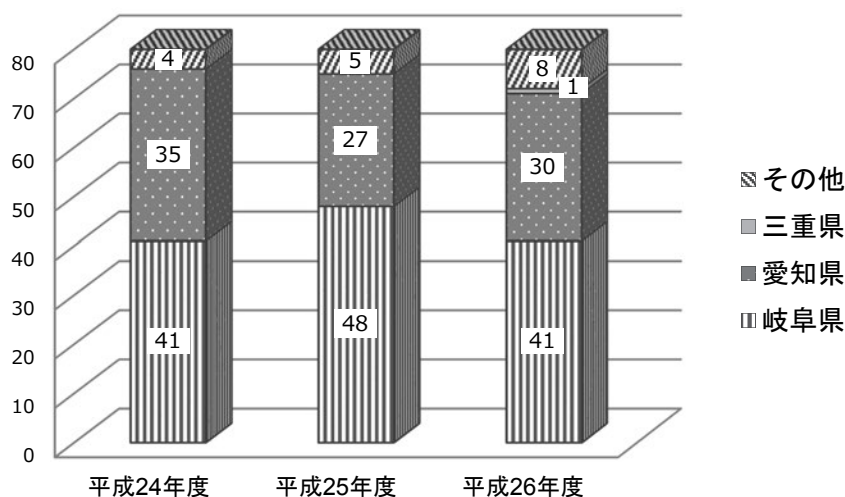
前期日程は基礎的学力により合否判定を行い、後期日程では基礎学力に加えて面接による人物判定を取り入れて合否判定を行っている。推薦入学 I 特別入試と社会人特別入試では小論文による英語読解力と国語力および面接による人物判定を取り入れている。また、3年次編入学試験では国家試験合格レベルの医学・看護に関する基礎専門能力と面接による人物評価によって合否判定を行っている。

(3) 学生の受入れ状況

学生定員充足状況：平成 24 年度から 26 年度までの 3 年間の入学（志願者・入学者）に関する状況は次表のとおりである。

区分		志願者数	受験者数	入学者	県別内訳			
					岐阜県	愛知県	三重県	その他
平成 24 年度	男	28	20	1	0	1	0	0
	女	356	258	79	41	34	0	4
	計	384	278	80	41	35	0	4
平成 25 年度	男	24	21	5	3	2	0	0
	女	335	244	75	45	25	0	5
	計	359	265	80	48	27	0	5
平成 26 年度	男	34	29	7	2	2	1	2
	女	372	268	73	39	28	0	6
	計	406	297	80	41	30	1	8





入学者出身県別内訳

(4) 編入学制度と実態

看護学科では、すでに看護に関する学科あるいは課程において学習してきた学生を対象に、編入学（第3年次）による学生の受け入れ制度を設けている。

平成24年度～平成26年度の編入学（志願者・入学者）に関する状況は次表のとおりである。平成26年度は看護学科の求める条件に該当する入学者は1人であった。

区分		志願者数	受験者数	入学者
平成24年度	男	4	4	0
	女	23	18	0
	計	27	22	0
平成25年度	男	1	1	0
	女	12	6	0
	計	13	7	0
平成26年度	男	3	2	0
	女	11	9	1
	計	14	11	1

(5) 研究生の受入れと実態

学則において研究生の受け入れ制度を設けているが、平成24～26年度に研究生の受け入れは無かった。

2. カリキュラム

看護職の基礎的能力と、科学的思考に裏づけられた看護実践能力、保健・医療・福祉全般にわたる広い見識、そして幅広い教養と豊かな人間性を養うことを目的として、教養教育と専門教育（基礎科目と専門科目）を開講している。

(1) カリキュラムの特徴

- ① 教養科目は、全学共通教育科目として開講
初年次セミナー、人文科学、社会科学、自然科学、複合領域、英語、第2外国語、スポーツ・健康科学及び自由選択科目が開講され、必要単位を考慮しながら、これらの科目から自分の学びたい科目を選択する。
- ② 医学部との合同講義（医学概論）
全人的医療や医療職種の役割などに関して学ぶ。
- ③ 実習や体験に基づいた学習の重視
専門科目は、講義だけでなく体験を踏まえた学習を実施する。

(2) カリキュラムの構築

① 看護実践能力の育成を目指してカリキュラムの構築

- ・平成 23 年 3 月 11 日に文部科学省の「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」から最終報告が出された。その中で「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標 — 教育内容と学習成果 —」が示された。これには看護実践を構成する 5 つの能力群と 20 の実践能力項目が挙げられている。これに基づき、平成 24 年度改正カリキュラムが開始され、看護学科では再度、これらの項目と看護学科での教育内容との整合性を見直し、示された看護実践能力が修得できるように教育内容を各講座間で有機的に関連させながら、看護専門教育を 4 年一貫教育として実施するようにカリキュラムの再構築を目指して検討中である。
- ・1 年次生から 4 年次生までの間に、看護学実習（初期体験実習、基礎看護学実習、急性期看護学実習、慢性期看護学実習、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、在宅看護学実習、地域看護学実習、統合実習）を通じて看護の計画的な展開能力、特定の健康問題をもつ対象への実践能力、ケアチームの一員として活躍できる基礎的な能力が修得できるように実習を配置している。

② 国家試験受験資格が取得できるカリキュラム構築

1 年次生から 4 年次生までの間に、共通教育及び専門教育の各教科目を学習し、4 年次学年末に実施される看護師国家試験及び保健師国家試験の受験要件を満たす十分な科目と単位数に配慮したカリキュラムを構築してきた。

保健師に関しては、平成 24 年度以降入学生から教育課程を選択制として受験要件を満たすカリキュラムを構築している。

また助産師に関しては、選択科目として助産師国家試験の受験要件を満たすカリキュラムを構築している。

③ テュートリアル教育（少人数によるグループワーク）を取れ入れたカリキュラムを構築

入学当初から社会や医療の変化に伴い生起する多様で複雑な健康問題に対して看護職として自ら課題を探究、その課題の解決に向けて学習できる能力の獲得を目指してテュートリアル教育を取り入れたカリキュラム構築をしている。

④ 看護学専門科目の一部として発展科目を位置づけ、幅広い視野をもった看護実践能力育成に向けて学習する機会を設けること、さらに、科学的思考の修得と将来への発展を期待して、研究方法の講義及び卒業研究の実際を通して、基礎的能力の修得を行うように位置づけている。

(3) 課題と展望

平成 24 年度からの新カリキュラムでは、卒業に必要な単位数を 133 単位から 127 単位に変更し、学生の自己学習に使用できる時間数を確保することを試みた。また、今までの助産師教育課程の選択制（上限 8 名）に加え、保健師教育課程も選択制（上限 20 名）としたことで、保健師として活躍したい学生に焦点をあてた、より効果的な教育・実習内容にできるようにした。将来的な看護学教育認証評価機構（仮）の認証評価の受審に向けて、看護学科のディプロマポリシーとそれに基づく教育内容との整合性を検証していく必要がある。

また、平成 22 年度からは養護教諭 1 種免許取得が可能な教職課程を設置し、平成 24 年度は 7 名、平成 25 年度は 6 名、平成 26 年度は 4 名の学生が教職科目と養護に関する科目を履修している。今後も、4 年次に行われる養護実習等の実習に関する教育環境を全学の教職課程専門委員会と連携しながら整備していく必要がある。

3. 教育方針

(1) 教育改革

看護学科では、平成 24 年度にカリキュラム改正を行った。カリキュラム改正にあたっては、指定規則の変更内容と平成 21 年度からのカリキュラムの問題点を踏まえ以下の改正を行った。①基礎科目を見直し、平成 21 年度カリキュラムの 6 科目から医療英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（医療英語は、20 名の少人数クラス）を新設して 7 科目に精選した。専門科目の見直しを行い、健康の保持増進・治療・回復において様々な役割・機能を担っている医療関係部門（者）の活動の実態を把握し、チーム医療及び看護師として他職種との連携を図るための基礎能力を養う目的で、統合実習を 3 年次後学期から 4 年次前学期へ開講時期を移動した。

(2) 全学共通教育

大学では、専門について深く学ぶとともに、教養を学ぶことが必要である。この目的を達成するため、4年一貫教育体制のもとに、教養教育と専門教育を並行して行っている。教養科目については、全学体制のもとに全学共通教育として進められている。

○全学共通教育の最低修得単位数

科目区分	卒業要件修得単位数
初年次セミナー	2 単位以上
人文科学	4 単位以上
社会科学	4 単位以上
自然科学	4 単位以上
複合領域	4 単位以上
英語	4 単位以上
第 2 外国語	2 単位以上
スポーツ・健康科学	2 単位以上
自由選択科目	4 単位以上
合計	30 単位以上

○全学共通教育の開講時間枠

1 年次前学期

曜日 時限	1	2	3	4	5
月	◎	◎	◎	◎	◎
火	◎	◎	◎	◎	◎
水	◎	◎			
木					
金					

1 年次後学期

曜日 時限	1	2	3	4	5
月	◎	◎	◎	◎	◎
火	◎	◎	◎	◎	◎
水	◎	◎			
木					
金					

◎ : 全学共通教育の開講時間枠

空白 : 専門教育の開講枠

(3) 専門教育

① テュートリアル教育（少人数グループワーク）

従来テュートリアル教育として行ってきた専門教育は、看護学教育独特のカリキュラム特徴と時間割上の過密性、および科目ごとの教員の人数上の問題があり、医学科で実施している本来のテュートリアル教育の方法をとることが難しかった。現在は、テュートリアル教育としていた科目では 5~10 人の少人数グループで課題に取り組む少人数グループワークの形をとっている。グループワークでは教室に加えて 13 のセミナー室を使用して行い、セミナー室では課題に関連した専門書や統計資料を配置してグループワーク中に自由に閲覧可能とした。また、課題に取り組むことや取り組み結果をまとめるために、コンピュータ、プリンタ、スキャナーを各セミナー室に配置して学生が自由に使用できるようにしている。学生が多用しているマイクロソフトワードをセミナー室の全てのパソコンにインストールするなど、学生のニーズにも臨機応変に対応している。

② 看護学臨地実習

必修科目である臨地実習（23 単位）は、卒業要件単位数（127 単位以上）のうち 20%弱を占める非常に重要な専門教育科目であり、看護師・保健師養成には欠かせないものである。そのため、学生の基礎科目や専門科目の学習進度に合わせ、1 年次の初期体験実習による動機付け、2 年生の基礎看護学実習における看護過程の展開、3 年次から 4 年次にかけての分野別実習における看護過程の展開の学習と統合実習というように構成してきた。臨地実習に関わる委員会として実習委員会があり、次世代の看護を担う能力を持った人材を育成するために以下の活動を行ってきた。

- ・臨地実習施設との調整と臨地実習指導者会議の企画および開催
- ・年度ごとの臨地実習計画表の作成

- ・ 臨地実習要項の作成と配布
- ・ 臨地実習ガイドランスの企画と運営
- ・ 臨地実習における病院感染対策マニュアルの改定
- ・ HB 感染症と小児感染症の抗体検査と検査結果の管理
- ・ HB 感染症と小児感染症ワクチン接種の勧奨
- ・ 学生を対象とした感染予防対策に関する特別講義の開催
- ・ 患者および学生の個人情報保護に関する実習記録等取り扱いマニュアルの作成
- ・ 臨地実習に伴う予算に関する検討
- ・ 在学生へのインフルエンザワクチン接種の勧奨と医学科と合同で実施する希望学生へのワクチン接種

平成 25 年には、インフルエンザ等感染症の流行により、臨地実習中の感染症発生に対する予防行動と発生時の対応の詳細について、生体支援センターの協力のもと、内容の見直しを行い改訂した。

地域看護学と母性看護学、助産学の実習は、受け入れ施設の固定化が難しく、施設の変更が多いことが問題点としてあげられるが、他の分野では附属病院以外の施設に関してほぼ安定してきており、施設における指導体制の安定化によって実習における学習効果を高めていくことが可能になってきた。今後、実習指導に関わる教員のさらなる指導能力の向上、実習施設との連携の充実を図ることによって、ディプロマポリシーに合った学生をより多く育成していくことが課題である。

(4) 他大学における授業科目の履修方針と状況

学則第 39 条の規定「教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該他大学等の授業科目を履修させることができる。」とあるが、専門科目についての実績はない。

平成 23 年度以降、留学した学生からの申請に基づく単位認定は行っていない。

(5) 在籍、留年、休学、退学の状況

過去 3 年間の状況は次表のとおりである。

区 分	在 籍	留 年	休 学	退学(除籍を含む。)
平成 23 年度	337	9	4	1
平成 24 年度	329	15	3	2
平成 25 年度	326	12	1	1

(6) 教育施設・設備の現状

区 分	面 積	用 途	設 備
看護学科校舎 1 階 講義室 1	134 m ²	講 義	プロジェクター、ビデオ投影装置、マイク設備、資料提示装置
看護学科校舎 3 階 講義室 2	105 m ²	〃	プロジェクター、ビデオ投影装置、マイク設備、資料提示装置
看護学科校舎 3 階 講義室 3	111 m ²	〃	プロジェクター、ビデオ投影装置、マイク設備、資料提示装置
看護学科校舎 4 階 講義室 4	90 m ²	〃 (学部、大学院)	プロジェクター、ビデオ投影装置、マイク設備
看護学科校舎 5 階 講義室 5	68 m ²	〃	プロジェクター、ビデオ投影装置
総合研究棟 1 階 セミナー室	第 1～9 室 26 m ² ～47 m ²	グループワーク、初期 体験実習、自己学習	パソコン、プリンター、スキャナー、 書棚 (授業用専門書)
総合研究棟 5 階 セミナー室	第 10～13 室 22 m ² ～45 m ²	グループワーク 自己学習	パソコン、プリンター
総合研究棟 3 階 大学院セミナー 室 1・2	2 室 23 m ² ～24 m ²	講 義	
総合研究棟 3 階 大学院生研究室	2 室 23 m ² ～24 m ²	研 究	

区 分	面 積	用 途	設 備
看護学科校舎 2 階 基礎看護実習室 1	258 m ²	基礎看護学実習	ビデオ投影装置, マイク設備, 資料提示装置, ガス乾燥機
看護学科校舎 2 階 老年在宅実習室	92 m ²	老年・在宅看護学実習	バリアフリーモデルルーム
総合研究棟 2 階 成人看護実習室 1	23 m ²	成人看護学実習	
総合研究棟 2 階 成人看護実習室 2	106 m ²	成人看護学実習	ビデオ投影装置, マイク設備, 資料提示装置,
総合研究棟 2 階 成人看護実習室 3	26 m ²	成人看護学実習	書棚
総合研究棟 2 階 基礎看護実習室 2	47 m ²	基礎看護学実習	ビデオ投影装置, マイク設備, 資料提示装置
総合研究棟 3 階 地域看護実習室	94 m ²	地域看護学実習	
総合研究棟 3 階 精神看護実習室 1	53 m ²	精神看護学実習	
総合研究棟 3 階 精神看護実習室 2	26 m ²	精神看護学実習	
総合研究棟 3 階 地域・精神看護実験室 1・2・3・4	4 室 23 m ² ~24 m ²	精神看護学実習	
総合研究棟 4 階 母性・小児看護実習室 1	147 m ²	母性・小児看護学実習	沐浴槽, 乾燥機
総合研究棟 4 階 母性・小児看護実習室 2	26 m ²	母性・小児看護学実習	保育器
総合研究棟 4 階 助産学実習室	93 m ²	助産学実習	沐浴槽, 分娩台
総合研究棟 4 階 母性・小児看護実験室	92 m ²	母性・小児看護学実習	IH クッキングヒーター, パソコン, プリンター

(7) 成績の評価, 認定の基準

成績 (平成 24 年度以降) は, 試験等の結果を総合して以下の区分で評価する。

- 秀 (90 点以上) 合格
- 優 (89 点~80 点) 合格
- 良 (79 点~70 点) 合格
- 可 (69 点~60 点) 合格
- 不可 (60 点未満) 不合格

病気その他正当な理由により定期試験を受けられなかった者について, 願い出により追試験を受けることができる。定期試験及び追試験に不合格となった者について, 1 回に限り再試験を受けることができる。

(8) 看護師等国家試験合格状況

過去 3 年間の合格状況は次表のとおりである。

区分		受験者	合格者	合格率	全国合格率
平成 23 年度	保健師	86	84	97.7	86.0
	助産師	7	7	100.0	95.0
	看護師	76	75	98.7	90.1
平成 24 年度	保健師	80	79	98.8	96.0
	助産師	2	2	100.0	98.1
	看護師	81	75	92.6	88.8
平成 25 年度	保健師	87	85	97.7	86.5
	助産師	4	4	100.0	97.6
	看護師	87	86	98.8	89.8

(9) 学生の就職状況

過去3年間の卒業生の就職状況は次表のとおりである。

区分	看護師	保健師	助産師	進学	その他
平成23年度	70	4	7	3	2
平成24年度	65	3	2	5	6
平成25年度	74	2	4	4	3

4. 学生生活への配慮

(1) 奨学金の種類と採択状況

過去4年間のデータは次表のとおりである。

区分	日本学生支援機構				その他の奨学金	
	第1種		きぼう21		申請者数	採用者数
	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数		
平成23年度	20	20	25	25	2	2
平成24年度	9	9	13	13	3	3
平成25年度	11	10	18	18	2	2
平成26年度	21	21	16	16	2	2

(2) 授業料の免除の状況

過去4年間の状況は次表のとおりである。

区分	在籍者数	前学期			後学期		
		申請	免除		申請	免除	
			全額	半額		全額	半額
平成23年度	337	26	9	14	25	10	13
平成24年度	329	27	16	8	24	16	8
平成25年度	326	27	18	5	27	18	7
平成26年度	317	30	15	9	28	22	5

(3) 学生生活相談の体制と実態

学生の個人的な生活に関する相談については、学務係が窓口として対応している。

個人的相談については定められた担当教員が応じ、講座レベルでの指導事項などについては当該講座の教員により対応し、総合的には教務厚生委員会看護学科委員会において対応している。

(4) 課外活動の実態

看護学科で許可している学生団体は存在しないが、岐阜大学教学委員会の認める体育系及び文科系サークル（下表のとおり）、また岐阜大学医学部教務厚生委員会の認める医学部体育系及び文科系サークルに所属して活動する学生は少なくは無く、運動系サークルではマネージャーで活躍する学生が多い。

キャンパスライフが有意義で、健全なものとなるように課外活動を行う学生数の実態の全学サークルについては、次表のとおりであり体育系が40名ほどであり、文科系が30名ほどである。

区分	全学サークル	
	体育系	文化系
平成23年度	41	40
平成24年度	37	28
平成25年度	33	24
平成26年度	43	22

※各年度の5月末での部員数であり、新入部員数を含む。

3 研究活動

〔基礎看護学講座〕

(1) 基礎看護学分野

1. 研究の概要

基礎看護学分野では、看護基礎教育と看護継続教育との関連性の中で、その歴史的背景を踏まえつつ、看護学生及び看護師に必要な看護技術教育に関する研究、看護学生・看護職のキャリア発達、ストレスマネジメントに関する研究、看護師のワークライフバランスに関する研究を行っている。また、看護の場の拡大に伴う在宅における感染管理を含む看護管理に関する研究にも取り組んでいる。更に、19世紀英国における社会の変革を Charles Dickens の *Hard Times* を中心として研究するなど、各自の研究テーマに基づいて取り組んでいる。

- 1) 占領期に焦点をあてた病院管理及び看護技術教育に関する研究に取り組んでいる。
- 2) 看護基礎教育における臨床看護師との協働による看護技術教育、及び身体侵襲を伴う看護技術の教育に関する研究に取り組んでいる。
- 3) 在宅における感染管理に関する教育プログラムの効果検証をテーマに研究に取り組んでいる。
- 4) 19世紀英国における社会の変革を Charles Dickens の *Hard Times* を中心として研究に取り組んでいる。特に労働者階級の人々の生活の視点から、さまざまな社会問題を分析する。また、Charles Dickens がこの時代の社会問題をどのように考え、どのような行動をとり、どのような改革を行うべきとしたかを研究する。
- 5) 基礎看護技術の教育方法の工夫として、教育支援システム AIMS-Gifu を活用した看護技術教育に関する研究に取り組んでいる。また、循環病態学分野の専門家とともに高血圧に関する基礎研究を行っている。
- 6) 看護師のワークライフバランスが実現するための課題、および施策についての研究に取り組んでいる。
- 7) 看護学生、看護職のキャリア発達を促進するためのストレスマネジメント教育のプログラム開発に関する研究に取り組んでいる。

2. 名簿

教授：	滝内隆子	Takako Takiuti
教授：	小松妙子	Taeko Komatsu
准教授：	瀬戸崎康子	Yasuko Setozaki
准教授：	竹下美恵子	Mieko Takeshita
准教授：	飯野矢住代	Yasuyo Iino
助教：	岡本千尋	Chihiro Okamoto
助教：	水野郁子	Ikuko Mizuno

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 滝内隆子. 看護を考え、チームで連携し、実践するための力：看護職としての社会人基礎力の育て方—専門性の発揮を支える3つの能力・12の能力要素— 第1版，東京：日本看護協会出版会；2012年：15-26.
- 2) 滝内隆子. 「臨床実践能力」と「社会人基礎力」の関係：看護職としての社会人基礎力の育て方—専門性の発揮を支える3つの能力・12の能力要素— 第1版，東京：日本看護協会出版会；2012年：31-33.
- 3) 滝内隆子. 日本の看護のあゆみ—歴史をつくるあなたへ—第2版改題，東京：日本看護協会出版会；2014年：140-156.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 田島真智子，滝内隆子. 新卒看護師の離職要因と離職時期及び新卒看護師・看護学生の職業志望動機—1990年～2010年の文献を通して—，岐阜看護研究会誌 2012年；第4号：43-48.
- 2) 渡邊郁子，塚原節子. 職務満足度を高め、働きやすい職場づくりにつながる WLB の取り組み，看護部長通信 2012年；10巻：65-70.

- 3) 滝内隆子, 小松妙子, 竹下美恵子, 岡本千尋, 渡邊郁子, 小西真人, 伊藤友美, 荻谷三月, 中里綾子. 教員と臨床看護師の協働による看護技術教育の実際, 看護人材教育 2013年;9巻:64-71.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 滝内隆子, 小松妙子, 岡本千尋, 渡邊郁子, 中島美奈子, 中川潔美, 田島真智子, 伊藤友美, 荻谷三月. 身体侵襲を伴う看護技術の学生間における体験学習の検討, 岐阜看護研究会誌 2012年;第4号:111-119.
- 2) 岡本千尋, 滝内隆子. 実験を導入した看護技術教育の効果—防衛の「皮膚統合性」の授業を通して—, 岐阜看護研究会誌 2012年;第4号:121-127.
- 3) 小松妙子, 滝内隆子, 岡本千尋, 渡邊郁子, 中島美奈子, 伊藤友美, 荻谷三月, 中里綾子. 臨床看護師との協働による基礎看護技術教育の実践(第II報), 岐阜看護研究会誌 2012年;第4号:137-146.
- 4) 滝内隆子, 大津廣子, 伊藤友美. 占領期の看護技術教育—占領期に使用されたテキストの分析を通して—, 日本看護歴史学会誌 2012年;25巻:40-57.
- 5) 前田修子, 滝内隆子, 小松妙子, 河野由美子, 久司一葉. 長期膀胱留置カテーテル管理における訪問看護師の困難経験, 日本在宅ケア学会誌 2012年;16巻:68-75.
- 6) 前田修子, 滝内隆子, 小松妙子, 河野由美子, 久司一葉. 長期膀胱留置カテーテル留置舎の訪問看護緊急対応状況の実態, 訪問看護と介護 2012年;17巻:888-892.
- 7) 大津廣子, 佐藤美紀, 滝内隆子, 足立みゆき, 学内実習における教員の基礎看護技術の実施状況と指導方法, 愛知県立大学看護学部紀要, 2012年;Vol19:31-40.
- 8) 長田登美子, 箕浦とき子, 足立久子, 杉浦浩子, 小松妙子. 臨地実習指導場面における看護教員の倫理的意識と倫理的行動の特徴, 岐阜看護研究会誌 2013年;第5号:11-21.
- 9) 岡本千尋, 滝内隆子, 小松妙子, 竹下美恵子, 渡邊郁子. 静脈血採血の修得度向上に向けた取り組み—e-learningを活用して—, 岐阜看護研究会誌 2013年;第5号:59-64.
- 10) 渡邊郁子, 塚原節子. ワークライフバランスに取り組む病院に勤務する看護師の職務満足度, 日本看護管理学会誌 2013年;17巻:37-47.
- 11) 渡邊郁子, 滝内隆子, 小松妙子, 竹下美恵子, 岡本千尋, 伊藤友美, 三輪峰子, 中里綾子. 基礎看護技術演習に協働した臨床看護師の臨地実習指導への影響, 岐阜看護研究会誌 2014年;第6号:25-34.
- 12) 滝内隆子, 大津廣子, 伊藤友美, 岡本千尋. 占領期の看護技術教育(その2)—証言に基づく看護教育模範学院における看護技術教育—, 日本看護歴史学会誌 2014年;27号:99-109.
- 13) 竹下美恵子, 滝内隆子, 小松妙子, 岡本千尋, 渡邊郁子. 臨床看護師との協働による看護技術教育の学生による評価, 岐阜看護研究会誌 2014年;第6号:43-51.

原著 (欧文)

- 1) Maeda S, Takiuti T, Komatsu T, Kohno Y, Kyuji K. Current status of long-term indwelling urinary-catheter management by visiting nurses. Int J Urological Nursing. 2013;7:76-84. IF 0.186
- 2) Maeda S, Takiuti T, Komatsu T, Kohno Y. Efficacy of the 'Long-term Urinary Catheter Management Training Program': A Pilot Study. Int J Urological Nursing Article first. 2014,11(DOI: 10.1111/Ijum.12063)

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 大津廣子, 研究分担者: 滝内隆子, 足立みゆき他; 科学研究費補助金基盤研究(C): 看護技術を教える教員・臨床看護師の看護技術教育力の育成・向上プログラムの開発; 平成 22-25 年度; 4,899 千円(479 : 3,938 : 328 : 154 千円)
- 2) 研究代表者: 前田修子, 研究分担者: 滝内隆子, 小松妙子他; 科学研究費補助金基盤研究(C): 訪問看護師向け「膀胱留置カテーテル管理」研修プログラムの開発と効果検証; 平成 22-24 年度; 4,834 千円(1,504 : 1,250 : 2,080 千円)
- 3) 研究代表者: 竹下美恵子; 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): 看護学生の二次的ストレスに伴う共感疲労のストレスマネジメント教育プログラムの開発; 平成 24-26 年度; 910 千円(260 : 130 : 520 千円)
- 4) 研究代表者: 渡邊郁子; 大学活性化経費(科研採択支援): 看護師のワークライフバランスを考慮した生涯就労モデルの開発; 平成 24 年度; 470 千円
- 5) 研究代表者: 岡本千尋; 大学活性化経費(科研採択支援): Blended-Learning を取り入れた看護技術教育システムの開発; 平成 25 年度; 700 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

- 1) 研究者名：滝内隆子，小松妙子，岡本千尋，渡邊郁子，中島美奈子，棚橋一将，内田佳伯：看護技術シミュレーターの開発(1)；平成 23-24 年度；150 千円；(株)タナック

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

滝内隆子：

- 1) 日本看護歴史学会理事(～現在)
- 2) 日本看護学教育学会評議員(～現在)

小松妙子：

- 1) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会企画委員，企画委員長(平成 25 年 3 月～平成 26 年 9 月)

竹下美恵子：

- 1) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会企画委員，実行委員長(平成 25 年 3 月～平成 26 年 9 月)

岡本千尋：

- 1) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会企画委員(平成 25 年 3 月～平成 26 年 9 月)

水野郁子：

- 1) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会企画委員(平成 25 年 3 月～平成 26 年 9 月)

2) 学会開催

滝内隆子：

- 1) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会(平成 26 年 9 月，岐阜)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

滝内隆子：

- 1) 日本看護歴史学会第 27 回学術集会(平成 25 年 8 月，京都，会長講演「宣教看護婦リンダ・リチャーズが京都で実践した看護教育」座長)
- 2) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会(平成 26 年 9 月，岐阜，会長講演「占領期の看護技術の教育 現在の看護技術の始まり」学術集会長)

小松妙子：

- 1) 第 44 回日本看護学会－看護教育－学術集会(平成 25 年 10 月，埼玉，シンポジウム「中堅看護師のキャリア発達支援～実践例からの提案～」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

- 1) 竹下美恵子：「研究室から 大学はいま」看護師のストレス管理分析：岐阜新聞(2013年8月13日)

12. 自己評価

評価

- 1) 基礎看護分野では看護技術修得のための教育と研究に力を入れ、中でも臨床看護師との協働による看護技術教育、身体侵襲を伴う看護技術の教育に関する取り組みは、論文として成果を発表している。また、臨床看護師との協働による看護技術教育の取り組みは評価され、県外からの講演や学会のシンポジストの依頼がきている。
- 2) 占領期に焦点をあてた病院管理並びに看護技術教育に関する研究は学会発表や論文として成果を発表している。中でも占領期の看護技術教育については看護史を研究領域とする研究者から史料として残す必要性を要望され、当時の関係者にインタビューを実施するなど研究を進めている。
- 3) 訪問看護師を対象とした在宅の感染管理に関する研修会の効果検証は学会発表及び論文として成果を発表している。
- 4) 看護職のワークライフバランスに関する研究成果を発表している。早急に研究結果を論文にまとめ、看護職の確保定着に貢献できるように研究を継続していく。
- 5) 3年間での本分野の構成員の異動・欠員等で、一定の職場環境、教育活動を高めることに翻弄し、十分な研究活動のできる環境を整えることは十分とは言い切れない状況である。
- 6) 看護学生のストレスマネジメント教育プログラムの開発に関する研究について、データ収集の途中で滞っている。今後は看護職を対象としても研究を進めるとともに学会発表、論文投稿をしていく必要がある。
- 7) 教育支援システム AIMS-Gifu を活用して、授業以外での学生の自己学習を支援している。これらの取り組みは、学生からの支持を得て AIMS-Gifu を活用事例 FD 意見交換会で紹介するに至った。

現状の問題点及びその対応策

- 1) 欠員教員の確保に努め、構成員が十分な中で教育活動及び研究活動に取り組めるように環境を整えていく。
- 2) 看護基礎教育の卒業時に求められている看護技術の到達度に学生を到達させるには自己学習できる環境・教材等が不足している。自己学習できる環境の整備及び教材の確保と併せて臨床看護師や在校生と協働した指導体制の整備をする。
- 3) 教員の看護技術力が低下しているため、臨床研修等の機会を確保し看護技術力を向上させる。
- 4) 研究と教育に費やす時間配分のバランスが悪い。今後は、自己の能力を見極め、バランス良く研究と教育に取り組む必要がある。
- 5) 学会誌やインパクトファクターの高い雑誌への論文投稿を実現させなければならない。そのためには、学会発表や雑誌の購読を積極的に行う。

今後の展望

- 1) 平成24年度からのカリキュラムの見直しを進め、基礎看護学分野の教育内容・方法、学習の順序性を見直しを行い、教育の質の向上に努める。
- 2) 教員それぞれが取り組んでいる研究を推進するとともに、これまで取り組んできた基礎看護学分野の基礎看護技術教育の教育内容・方法の充実、AIMS-Gifu を活用した教育の充実につながる研究をさらに共同で進めていきたい。
- 3) 研究費が獲得できるよう、医療・看護の動向を把握し、意義の高い研究テーマに取り組んでいきたい。

(2) 生命機能学分野

1. 研究の概要

本分野では、電子顕微鏡や蛍光顕微鏡に加え、分子生物学やコンピュータの技術を用いて、組織形態から分子レベルにまで至る研究を行っている。形態レベルの研究では、各種動物の舌乳頭及び上皮剥離後の結合組織の表面構造を走査型電子顕微鏡により観察し、主に比較解剖学的側面から食物及び咀嚼方法との関係について研究している。一方、分子レベルの研究としては、新たに見出した中心体タンパク質 CLERC の解析を通して、中心体や中心子機能の進化的特性の解明を目指している。さらに、ヒトを含めた多様な生物種のゲノム情報を活用することにより、生体分子の分子進化経路の解析や、祖先タンパク質の再現、微生物の病原因子の解析等、コンピュータを用いたバイオインフォマティクスに基づく研究を推進している。

2. 名簿

教授： 江村正一 Shoichi Emura
教授： 武藤吉徳 Yoshinori Muto

3. 研究成果の発表

著書 (和文)
なし

著書 (欧文)
なし

総説 (和文)
なし

総説 (欧文)
なし

原著 (和文)

- 1) 江村正一. カモ科に属する 4 種類の鳥の舌表面の形態について, 医学と生物学 2012 年; 156 巻: 438-442.
- 2) 江村正一. クロヅルの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2012 年; 156 巻: 443-446.
- 3) 江村正一. ヒョウモントカゲモドキとフトアゴヒゲトカゲの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2012 年; 156 巻: 650-654.
- 4) 江村正一. ブラックバックの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2012 年; 156 巻: 655-659.
- 5) 江村正一. コサンケイの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2012 年; 156 巻: 740-744.
- 6) 江村正一. シュバシコウの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2012 年; 156 巻: 745-749.
- 7) 吉崎純夫, 梅村俊彰, 武藤吉徳. パーソナルコンピュータを用いた看護動作の画像解析法, 岐阜看護研究会誌 2012 年; 4 巻: 9-12.
- 8) 江村正一. シロフクロウの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2013 年; 157 巻: 38-42.
- 9) 江村正一. ニホンジカの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2013 年; 156 巻: 43-47.
- 10) 江村正一. コジュケイの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2013 年; 156 巻: 465-469.
- 11) 江村正一. ラマの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2013 年; 156 巻: 470-474.
- 12) 江村正一. カラフトフクロウの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2013 年; 156 巻: 543-547.
- 13) 江村正一. コフランミンゴの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2013 年; 156 巻: 548-552.
- 14) 江村正一. バーバリーシープの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 形態・機能 2014 年; 12 巻: 64-68.

原著 (欧文)

- 1) Chen H, Emura S, Nagasaki S, Kubo K. Double inferior vena cava with interiliac vein: A case report and literature review. *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2012;88:147-151.
- 2) Emura S, Okumura T, Chen H. Scanning electron microscopic study on the tongue in the scarlet macaw (*Ara macao*). *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2012;89:57-60.

- 3) Emura S, Okumura T, Chen H. Morphology of the lingual papillae in the Egyptian rousette bat (*Rousettus aegyptiacus*). *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2012;89:61-66.
- 4) Emura S, Okumura T, Chen H. Morphology of the lingual papillae in the jaguar. *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2013;89:93-97.
- 5) Emura S, Okumura T, Chen H. Morphology of the lingual papillae in the giraffe. *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2013;89:99-103.
- 6) Emura S, Okumura T, Chen H. Morphology of the lingual papillae in the fishing cat. *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2014;90:79-83.
- 7) Emura S, Okumura T, Chen H. Morphology of the lingual papillae in the brush-tailed rat kangaroo. *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2014;90:85-88.
- 8) Emura S, El Bakary N.E.R. Morphology of the lingual papillae of Egyptian buffalo (*Bubalus bubalis*). *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2014;91:13-17.
- 9) Emura S, Sugiyama K. Morphology of the lingual papillae of the black-backed jackal (*Canis mesomelas*). *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2014;91:19-24.
- 10) Yoshizaki S, Umemura T, Tanaka K, Watanabe K, Hayashi M, Muto Y. Genome-wide evidence of positive selection in *Bacteroides fragilis*. *Comput Biol Chem.* 2014;52:43-50.

IF 1.595

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

なし

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

江村正一：

- 1) 日本解剖学会評議員(～現在)
- 2) 日本臨床分子形態学会評議員(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

武藤吉徳：

- 1) TSWJ (Bioinformatics domain) ; Editorial Board(～現在)
- 2) Advances in Planar Lipid Bilayers and Liposomes ; Editorial Board(～平成 26 年)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

研究内容は、組織形態から生体分子のレベルまで広範囲に亘るが、分野内の教員間での共同研究は為されていない。また、研究成果は形態及び生体分子レベル共に少数ながら国際的にみても独自の成果が公表されている。しかし、少人数の分野であることもあり、出版数は比較的少ない。

現状の問題点及びその対応策

形態領域（電子顕微鏡）における研究の進行速度は、研究材料としての動物の器官及び組織の確保次第であり、今後これまで以上に全国の動物園及び各自治体の協力を得たいと考えている。一方、生体分子の研究では、ここ一、二年でコンピュータを用いたバイオインフォマティクスに関する研究手法の確立を進めてきており、少しずつ研究成果が得られるようになりつつある。今後は、このバイオインフォマティクス技術を活用して、ゲノム情報を用いた様々な解析を可能にしたい。

今後の展望

電子顕微鏡により各種動物の舌形態をさらに多く観察し、舌の構造と食性との関係を明らかにしたい。他方、生体分子研究については、多様なゲノム情報を活用できるバイオインフォマティクスに基づく解析を積極的に導入し、中心体タンパク質の機能や分子進化について明らかにしたい。また、遺伝子ネットワークについての解析手法を確立し、学内の他の研究室との積極的な共同研究を行い、研究成果の奥行きを深めていきたい。

〔母子看護学講座〕

(1) 母性看護学分野

1. 研究の概要

大法啓子：

母乳育児支援，地域における助産師活動，母性看護教育に関する研究

今田葉子：

助産師が提供する周産期母子ケア，母性看護学教育・技術に関する研究

大原良子：

母性看護学教育・助産学教育に関する研究

金子洋美：

妊娠・出産における安全性と快適さに関する研究，周産期の家族に関する研究，母性看護学教育に関する研究

長谷川文子：

分娩時出血量に関する研究，若年女性に対する健康教育について

三尾亜喜代：

臨地実習における教育方法に関する研究，分娩体位に関する研究

2. 名簿

教授：	大法啓子	Keiko Onori
准教授：	今田葉子	Yoko Imada
准教授：	大原良子	Ryoko Ohara
助教：	金子洋美	Hiromi Kaneko
助教：	長谷川文子	Ayako Hasegawa
助教：	三尾亜喜代	Akiyo Mio

3. 研究成果の発表

著書（和文）

なし

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 三尾亜喜代，曾田陽子，小松万喜子．看護学生が認識する看護師の看護職者としてのロールモデル行動とその理由，日本看護学教育学会誌 2014年；23巻：31-45.

原著（欧文）

なし

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：川崎晴久，連携研究者：西本 裕，今田葉子，後藤多郎；科学研究費補助金基盤研究(B)：ハンドハプティックインターフェイスによる手技伝達の研究；平成 23-25 年度；19,630 千円(7,280：6,630：5,720 千円)
- 2) 研究代表者：川崎晴久，研究分担者：毛利哲也，遠藤孝浩，西本 裕，今田葉子，川合隆光，上木諭；総務省戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)：意志合意形成に基づくロボットハンド遠隔操作システムの研究開発；平成 24-26 年度；60,000 千円(20,000：20,000：20,000 千円)
- 3) 研究代表者：長谷川文子；科学研究費助成事業若手研究(B)：女子大学生に対する子宮頸がん教育プ

プログラムの開発；平成 25-27 年度；2,990 千円(1,300：780：910 千円)

- 4) 研究代表者：三尾亜喜代；科学研究費補助金基盤研究(C)：不妊治療を終結した子どもを持たない女性の健康感・幸福感向上に向けた看護支援の検討；平成 25-27 年度；2,470 千円(780：1,040：650 千円)
- 5) 研究代表者：金子洋美；科学研究費補助金基盤研究(C)：マタニティ・ヨガの妊娠・分娩改善効果に関する科学的検証；平成 26-29 年度；3,380 千円(1,040：650：650：1,040 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

- 1) 金子洋美：ストレッチ評価用器具(実用新案登録第 3193887 号)(平成 26 年度)

6. 学会活動

1) 学会役員

大法啓子：

- 1) 岐阜県母性衛生学会幹事(~現在)

三尾亜喜代：

- 1) 日本看護科学学会第 34 回学術集会実行委員(平成 26 年)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

大法啓子：

- 1) 第 29 回岐阜県母性衛生学会学術集会(平成 26 年 1 月，一般演題 A 座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

大法啓子：

- 1) 岐阜県立看護大学研究倫理審査委員(平成 24 年度~現在)
- 2) 岐阜母乳の会幹事(~現在)

今田葉子：

- 1) 人間医工学研究開発センター人間支援ロボティクス部門組織委員(~現在)

金子洋美：

- 1) 岐阜県保健師助産師看護師短期実習指導者講習会特定分野講師(平成 26 年度)

10. 報告書

- 1) 大法啓子：「未来を切り開き明日にはばたく」キャリア・就職白書 2013 岐阜大学 第 2 部 学部における就職・キャリア形成の取り組み 医学部看護学科：42

11. 報道

1) 大法啓子：「研究室から 大学はいま」：岐阜新聞(2014年2月4日)

12. 自己評価

評価

- ・授業や実習内容・方法の充実や改善を行った。
- ・助産師教育課程のカリキュラム改正に伴う準備を進めてきた。研究についてはデータ収集及び分析結果を整理し、学会発表に繋げたい。
- ・学会での発表を実施し、論文にまとめることが出来ている。
- ・研究成果を反映させた実践能力向上にむけた教育の充実を図った。
- ・研究では機器の開発を行い、その有用性と簡便性が実証できた。被験者数を増やしてデータを蓄積している。
- ・カリキュラム変更に伴い来年度より新たに開始される実習に向けての学内外の調整を行ってきた。今後も実習開始に向けた中心的役割を担っていく。
- ・研究に関して、来年度は総括を行う最終年度であるため計画に沿って進めていきたい。

現状の問題点及びその対応

- ・教育活動と研究・社会活動の両立を図る。

今後の展望

- ・分野の一員として円滑な運営，さらなる研究や社会活動発展のために自己研鑽する。
- ・新たな研究分野や学外の研究者との共同研究など新たな研究課題を見いだせるよう努力する。
- ・被験者数を増大してデータを蓄積し，安産に対するヨガ運動の身体的効果を明らかにしていく。

(2) 小児看護学分野

1. 研究の概要

小児看護学分野では、以下に示すような研究、または研究に付随する活動を行ってきた。

- ・ アトピー性皮膚炎をもつ幼児の掻痒感と掻破行動とその母親の蓄積的疲労の特徴に関する研究
- ・ 協働によって食物アレルギーをもつ学童が学校生活に適応していくためのモデルを開発する研究
- ・ アレルギーをもつ子どもと家族への療養能力向上を目指した、アレルギー専門職（アレルギーエデュケーター）への教育および研究支援
- ・ 子どもと家族主体の在宅ケアにおけるケアモデルの開発及び実践推進システムに関する研究
- ・ 小児期発症の慢性疾患患者の成人移行に関する研究
- ・ 障害児入所施設に入所する虐待やネグレクトを受けた子どもに支援を行う専門職が経験する困難に関する研究
- ・ 虐待を受けた子どもへの治療的養育環境と子どもの変化過程に関する研究

2. 名簿

教授： 杉浦太一 Taichi Sugiura
准教授： 田中千代 Chiyo Tanaka
助教： 大橋麗子 Reiko Ohashi

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 杉浦太一. 第4章 治療援助技術 10. 牽引・固定法：浅野みどり編. 根拠と事故防止からみた 小児看護技術, 東京：医学書院；2012年：439-461.
- 2) 杉浦太一. 第5章 救急手技 2. 頭部外傷：浅野みどり編. 根拠と事故防止からみた 小児看護技術, 東京：医学書院；2012年：477-481.
- 3) 杉浦太一. 第5章 救急手技 8. 熱中症(暑熱障害)：浅野みどり編. 根拠と事故防止からみた 小児看護技術, 東京：医学書院；2012年：503-507.
- 4) 杉浦太一. 第2章 幼児期 21. ネフローゼ症候群：石黒彩子, 浅野みどり編著. 発達段階からみた 小児看護過程+病態関連図 第2版, 東京：医学書院；2012年：328-342.
- 5) 杉浦太一. 第3章 学童期～思春期 32. 急性糸球体腎炎(急性腎炎症候群)：石黒彩子, 浅野みどり編著. 発達段階からみた 小児看護過程+病態関連図 第2版, 東京：医学書院；2012年：507-518.
- 6) 杉浦太一. 第3章 学童期～思春期 34. 若年性特発性関節炎：石黒彩子, 浅野みどり編著. 発達段階からみた 小児看護過程+病態関連図 第2版, 東京：医学書院；2012年：545-557.
- 7) 杉浦太一. 第3章 学童期～思春期 35. 骨折：石黒彩子, 浅野みどり編著. 発達段階からみた 小児看護過程+病態関連図 第2版, 東京：医学書院；2012年：562-574.
- 8) 杉浦太一. 第3章 看護学生に伸ばしたい社会人基礎力-4つの能力・13の能力要素と行動指標、教員・指導者の関わり-：箕浦とき子, 高橋 恵編著. 看護職としての社会人基礎力の育て方-専門性の発揮を支える3つの能力・12の能力要素, 東京：日本看護協会出版会；2012年：42-73.
- 9) 杉浦太一. 9章3節 バイタルサインの測定：市江和子編. 小児看護学, 東京：オーム社；2014年：140-148.
- 10) 杉浦太一. 9章4節 身体測定：市江和子編. 小児看護学, 東京：オーム社；2014年：149-153.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 田中千代, 丸光 恵. 成人移行期医療の看護サイドからのサポート, 肝胆膵 2014年；69巻：567-575.
- 2) 大橋麗子, 田中千代. 親・家族になる家庭を支える取組み 医療型障害児入所施設における「親子入所」を通じた支援, 小児看護 2014年；37巻(7月臨時増刊号)：1015-1020.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 杉浦太一, 大橋麗子. 蓄積的疲労からみたアトピー性皮膚炎幼児の母親の特徴, 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 2014年；12巻：285-293.
- 2) 大橋麗子. 肢体不自由児施設の専門職が経験する被虐待児支援における困難の構造, 子どもの虐待とネグレクト 2014年；16巻：68-77.

原著（欧文）

なし

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：大橋麗子；科学研究費補助金研究活動スタート支援：肢体不自由児施設における被虐待児の段階的支援システムの解明；平成 23-24 年度；1,040 千円(520：520 千円)
- 2) 研究代表者：山田智子(中部大学生命健康科学部)，研究分担者：浅野みどり(名古屋大学医学系研究科)，杉浦太一，石井真(中部大学生命健康科学部)；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：食物アレルギーを持つ学童の適応的な学校生活にむけた協働モデルの構築；平成 25-27 年度；4,680 千円(2,860：1,040：780 千円)
- 3) 研究代表者：大橋麗子；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：医療型障害児入所施設における被虐待児の地域移行・自立支援に関する研究；平成 25-28 年度；2,600 千円(780：650：650：520 千円)
- 4) 研究代表者：奈良間美保(名古屋大学医学系研究科)，研究分担者：大塚弘子(名古屋大学医学系研究科)，松岡真里(高知大学医学部)，田中千代，堀 妙子(京都橘大学)；科学研究費助成事業基盤研究(B)：子どもと家族主体の在宅ケアを支えるケアモデル開発と実践推進システムの考案；平成 25-28 年度；6,500 千円(2,990：1,170：1,170：1,170 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

杉浦太一：

- 1) 一般社団法人日本看護研究学会社員：評議員(～平成 24 年 4 月)
- 2) 日本看護医療学会評議員(～現在)
- 3) 一般社団法人日本小児看護学会社員(～現在)
- 4) 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会認定小児アレルギーエドゥケーター教育研修委員会委員(平成 24 年 7 月～現在)
- 5) 日本家族看護学会評議員(平成 25 年 4 月～現在)
- 6) 日本看護医療学会理事(平成 26 年 4 月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

杉浦太一：

- 1) 日本看護研究学会雑誌；編集委員(～現在)

田中千代：

- 1) 日本小児看護学会；編集委員(平成 25 年 9 月～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

杉浦太一：

- 1) 第 15 回日本子ども健康科学会(平成 25 年 12 月，名古屋，シンポジウム④「アレルギーエドゥケーター実践報告：大学のアレルギーエドゥケーターの立場から」シンポジスト)
- 2) 第 3 回岐阜県小児在宅医療研究会(平成 26 年 12 月，岐阜，パネルディスカッション「在宅看護の現

場における取組と課題」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

研究は、少しずつではあるが進められており、その成果を論文として公表することができている。著書は、研究成果に関係するものというよりも看護学生や看護師のための実践に役立つ内容となった。また、学会活動や社会貢献としても実績をあげられてきた。

現状の問題点及びその対応策

3名の教員で、学生や院生の教育、学内運営、研究を行っている現状である。しかし、臨床看護学の研究では研究フィールドが学外にあることと1年の半分をかけて行う臨地実習指導も附属病院だけでなく学外にあり、どうしても研究に割く時間が制限されることから、十分に研究に取り組む時間を確保することができないことが現状である。3名の教員が取り組んでいる研究課題が異なることもあり、教育や学内運営と合わせて行っていく工夫が必要と考えられる。また、岐阜大学の活性化経費を含む競争的研究資金を継続して獲得していくことが課題としてあげられる。

今後の展望

行ってきた研究は今後も継続・発展させていく必要性のあるものばかりであるため、研究に割く時間を確保しながら、取り組みを続けていく予定である。今後、運営交付金の中で使用できる研究費は次第に削減されることが予測されるため、競争的研究資金の獲得関しても積極的に行動していく所存である。

〔成人・老年看護学講座〕

(1) 成人看護学分野（慢性期）

1. 研究の概要

臨床における看護の質の向上のために臨床で得られた知の科学的分析, さらに慢性看護学の学問の確立と発展に貢献できるよう研究に取り組んでいる。具体的には, 1) 慢性的な病を持ちながら生活する糖尿病患者の QOL, QOL の向上や再構築に求められる看護の理論的探索とそれに依拠する新たな理論開発, 糖尿病患者の生活習慣改善行動に対するやる気に関する研究, 2) 看護学生の死生観を育むための教育のあり方に関する研究, 3) 血液・造血器悪性腫瘍疾患により造血幹細胞移植を受ける患者が迎える心理的体験のプロセスの理解と, 移植医療に携わる臨床心理士による支援の現状と課題に関する研究, 4) 看護師のキャリア開発を支援するためのプログラムの開発に関する研究, 5) COPD 患者と家族の支援に関する研究, 6) がん患者の症状マネジメントなどである。

2. 名簿

教授： 足立久子 Hisako Adachi
准教授： 石黒千映子 Chieko Ishiguro
助教： 岩屋早苗 Sanae Iwaya
助教： 杉村鮎美 Ayumi Sugimura

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 野田洋子, 足立久子編修. 二分脊椎女性のためのリプロラクティブヘルスケアガイドブック(思春期女性編) 平成 25 年 3 月, 二分脊椎女性のためのリプロラクティブヘルスケア研究会; 2013 年: 1-57.
- 2) 足立久子. 病の慢性性とヒューマンケア: 清水裕子編修. ヒューマンケアと看護, ナカニシヤ出版; 2013 年: 87-94.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 庄(岩屋)早苗, 足立久子. COPD 患者とその家族に関する研究の現状, 岐阜看護研究会誌 2013 年; 5 号: 1-10.
- 2) 水谷聖子, 東野督子, 大野晶子, 柿原加代子, 杉村鮎美, 石黒千映子, 三河内憲子. 教育計画・研究支援環境からとらえた大規模病院における看護師のキャリア支援, 日本赤十字豊田看護大学紀要 2014 年; 9 巻: 95-104.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 庄(岩屋)早苗, 後閑容子. Gender に対する教育への反映 性同一性障害に対する看護学生の認識比較調査, 岐阜看護研究会誌 2012 年; 4 号: 85-92.
- 2) 杉村鮎美, 安藤祥子. 緩和ケア病棟における呼吸困難マネジメントと看護師の知識・技術・態度の関連, 日本がん看護学会誌 2013 年; 27 巻: 52-59.
- 3) 野田洋子, 足立久子. 思春期から性成熟期にある二分脊椎女性の月経の経験, 岐阜看護研究会誌 2013 年; 5 巻: 23-32.
- 4) 長田登美子, 箕浦とき子, 足立久子, 杉浦浩子, 小松妙子. 臨地実習指導場面における看護教員の倫理的意識と倫理的行動の特徴, 岐阜看護研究会誌 2013 年; 5 巻: 11-21.
- 5) 杉村鮎美, 水谷聖子, 柿原加代子, 大野晶子, 東野督子, 石黒千映子, 三河内憲子. 赤十字医療施設における中堅看護師のキャリア開発に関する意識, 日本赤十字豊田看護大学紀要 2014 年; 9 巻: 89-94.
- 6) 岩崎淳子, 足立久子. 家族支援のない糖尿病患者の自己効力感と支援に対する思い, 岐阜看護研究会誌 2014 年; 1 巻: 9-14.
- 7) 野田洋子, 足立久子, 道木恭子, 林 恵子, 鈴木幸子, 松宮良子, 小野敏子, 松野智香子, 廣瀬玲子. 二分脊椎女性のためのリプロダクティブヘルスケアガイドブック(思春期女性編)の作成, 岐阜看護研究会誌 2014 年; 1 巻: 1-7.
- 8) 鈴木幸子, 松野智香子, 野田洋子, 足立久子. 二分脊椎女性とその親の性に対する思い, 思春期学 2014 年; 32 巻: 317-326.

原著 (欧文)
なし

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：野田洋子，研究分担者：足立久子；科学研究費補助金基盤研究(C)：二分脊椎女性のリプロダクティブヘルスケアプログラムの実践と評価；平成 22-24 年度；4,160 千円(2,340：1,040：780 千円)
- 2) 研究代表者：長江美代子，研究分担者：服部希恵，岩瀬貴子，古澤亜矢子，石黒千映子，田中敦子，中村千鶴，安藤智子；科学研究費助成事業(挑戦的萌芽研究)：自殺予防のアウトリーチに関する研究 - 街角メンタルヘルス - ；平成 23-25 年度；2,990 千円(1,300：780：910 千円)
- 3) 研究代表者：長江美代子，研究分担者：服部希恵，田中敦子，石黒千映子，古澤亜矢子，佐藤仁和孩子，坪ノ内千鶴，加納尚美，甘佐京子，土田幸子，平田弘美，石田ユミ，笹原艶子，岸利江子，渡辺正樹，伊藤加奈子，佐藤利子；科学研究費助成事業(基盤研究(B))：暴力被害者に対する被害直後からの継続したケアに関する研究 - 自殺予防アウトリーチ - ；平成 25-27 年度；13,390 千円(5,590：3,900：3,900 千円)
- 4) 研究代表者：杉村鮎美，研究分担者：安藤祥子；平成 26 年度安田記念医学財団癌看護研究助成：肺がん患者の呼吸困難に対するケア実践促進要因；平成 26 年度；1,000 千円
- 5) 研究代表者：小野敏子，研究分担者：足立久子，野田洋子，道木恭子，土居悦子；科学研究費補助金基盤研究(C)：二分脊椎児者のセクシャル／リプロダクティブヘルス／ライツ教育の実践と評価；平成 26-28 年度；4,160 千円(2,080：1,170：910 千円)
- 6) 研究代表者：石黒千映子；科学研究費助成事業(挑戦的萌芽研究)：造血幹細胞移植を受ける患者の心的世界の変遷への理解とその支援に関する研究；平成 26-28 年度；2,343 千円(1,218：620：505 千円)
- 7) 研究代表者：石黒千映子，研究分担者：杉村鮎美，岩屋早苗，足立久子；岐阜大学活性化経費(教育)：看護基礎教育における終末期ケアに関する教育 学生の死生観の醸成をめざして；平成 26 年度；320 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

足立久子：

- 1) 日本慢性看護学会評議員(～平成 24 年 3 月)
- 2) 日本ヒューマン・ケア心理学会理事(～平成 26 年 3 月)
- 3) 日本看護研究学会評議員(平成 26 年 4 月～現在)

石黒千映子：

- 1) 日本緩和医療学会代議員(平成 24 年 2 月～平成 26 年 1 月)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

- ・ 4名の教員で、教育と研究活動を行っている。講義、半年に渡る臨床実習指導など時間的余裕のない厳しい条件の中で、教育に関しては、ほぼ概ね達成できていると思われる。研究に関しては、各教員、少ないながらも業績を積み上げるよう努力している。慢性期分野として取り組んでいる研究も、岐阜大学の助成金を得て1年が過ぎ、その成果は国内の全国的な学会で2つの発表をしており、看護領域の学会誌への投稿を目指して論文にまとめている段階である。研究についてもほぼ概ね達成できていると思われる。
- ・ 平成26年は、研究を行うための準備と、調査の実施が中心であった（看護学生の死生観に関する研究、看護師のキャリア開発の支援に関する研究、暴力被害者への被害直後からの支援に関する研究）。論文等の成果としては現れていないが、来年以降に成果を示すことができると考えている。しかし、競争的資金を獲得している研究（造血幹細胞移植を受ける患者に関する研究）については、研究を行うための準備が進んでおらず、計画の進行が遅れている。来年は、この遅れを挽回し、着実に研究を進めていきたい。

現状の問題点及びその対応策

- ・ 時間的余裕のない厳しい条件の中で、研究活動の時間の確保は難しいが、なんとか教育、研究共にほぼ概ね達成できていると思われる。しかしながら、教育と研究の質の担保と向上を目指して、さらなる努力を継続する必要がある。
- ・ 活動全体に占める研究活動の割合が、予定よりも低い状況にあった（教育活動等に占める割合が、実際には多くなっていった）。それぞれの活動内容と割合を見直し、研究活動に占める割合をきちんと確保できるようにしたい。また、研究活動の中でも占める割合に大きな偏りが生じていた。とくに介入研究の実施にあたってたくさんの研修を受ける必要があり、それによって他の研究活動への配分が減ってしまったことは否めない。来年も研修が続くが、研究活動の中での配分を見直し、予定より進行が遅れている研究に重点的に配分したい。計画通り進んでいる研究については、このまま計画に沿って進めていく。

今後の展望

- ・ 来年度から准教授1名欠員になるゆえ、今年度同様に教育と研究の質をどのように担保していくのが、課題である。ますます、本分野の教員をとりまく環境は厳しくなるが、努力したい。また、このような状況下であっても分野の研究として、臨床との共同研究の推進を図りたい。外部資金の獲得として科学研究費にとどまらず、各種団体の研究助成への申請など積極的に推進していきたい。
- ・ 平成27年3月に投稿論文の掲載が決まっているほか、秋以降には著書（共著）が出版される予定である。そのほか、2編の論文を執筆中であり、平成27年春に投稿する予定である。加えて、平成26年に行った調査についても、年内に投稿したいと考えている。計画が遅れている研究については、平成27年以内に研究倫理審査委員会の審議を経て、調査を実施したいと考えている。

(2) 成人看護学分野（急性期）

1. 研究の概要

成人看護学急性期分野では、看護学教育や看護実践に活かすことを目的とした研究を行っている。研究対象は手術を受ける患者と家族や救急・クリティカルケアを必要とする患者と家族、リハビリテーションを必要とする患者と家族、スポーツ等の運動を行う者など多岐にわたっており、広く家族・地域を含めた健康支援を考えるテーマに取り組んでいる。

主な研究テーマ

- ・成人急性期看護学講義・演習および実習における実践能力の育成と到達度に関する研究
- ・成人急性期看護における看護技術や教育方法に関する研究
- ・e-learning システムを使用した学習効果の検証に関する研究
- ・クリティカルケア領域における継続看護に関する研究
- ・救急蘇生のシミュレーション教育における学習効果に関する研究
- ・救急領域における患者家族のニーズに関する研究
- ・救命救急領域における自殺未遂患者へのケアに関する研究
- ・スポーツにおける看護師の役割に関する研究
- ・障害者スポーツの競技成立に関わる因子の研究
- ・骨軟部腫瘍術後の四肢障害者のリハビリテーションに関する研究
- ・上肢障害者のリハビリテーション機器の効果判定
- ・スポーツ外傷・スポーツ障害に関する研究

2. 名簿

教授：	松田好美	Yoshimi Matsuda
教授：	西本 裕	Yutaka Nishimoto
准教授：	高橋由起子	Yukiko Takahashi
助教：	伊藤美智子	Michiko Itoh
助教：	林 瑞穂	Mizuho Hayashi

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 竹内登美子, 松田好美. 術前検査を受ける患者の看護 - 呼吸機能検査 - : 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012 年: 46-52.
- 2) 松田好美. 術前化学療法を受ける患者の看護: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012 年: 65-72.
- 3) 竹内登美子, 松田好美. 手術および麻酔侵襲と生体反応 - 恒常性を保つための生体反応 - : 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012 年: 70-79.
- 4) 松田好美. 術後急性期における看護過程の展開: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012 年: 154-170.
- 5) 竹内登美子, 高橋由起子. 術前トレーニング: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012 年: 101-105.
- 6) 高橋由起子. 術前トレーニングとしての含嗽法: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012 年: 105-106.
- 7) 竹内登美子, 高橋由起子. 咳嗽による排痰法、器具を用いた呼吸法: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012 年: 106-109.
- 8) 高橋由起子. 早期離床のためのトレーニング: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012 年: 110-113.
- 9) 西本 裕, 金森昌彦. 運動器疾患で手術を受ける患者の看護に必要な知識 - 正しい形態は正しい機能を生む - : 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 1-8.
- 10) 西本 裕, 金森昌彦. 運動器疾患で手術を受ける患者の看護に必要な知識 - 運動器系のフィジカルアセスメント - : 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 9-45.
- 11) 西本 裕. 人工関節置換術の周手術期看護 - 疾患に関する基礎知識 - : 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 60-70.
- 12) 西本 裕. 人工関節置換術の周手術期看護 - 主な人工関節置換術のアプローチ - : 竹内登美子編. 高齢者

と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 71-72.

- 13) 西本 裕, 金森昌彦. 四肢の外傷患者の看護-疾患に対する基礎知識-: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 134-142.
- 14) 高橋由起子, 金森昌彦. 周手術期における説明と準備: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 49-53.
- 15) 金森昌彦, 高橋由起子. 周手術期における精神的背景: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 54-55.
- 16) 金森昌彦, 高橋由起子. 周手術期におけるロコモの視点: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 56-57.
- 17) 竹内登美子, 高橋由起子. 人工股関節置換術を受ける患者の看護: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 73-95.
- 18) 竹内登美子, 高橋由起子. 人工膝関節置換術を受ける患者の看護: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 96-99.
- 19) 竹内登美子, 高橋由起子. 看護過程の展開: 竹内登美子編. 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護 第 2 版, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2014 年: 158-169.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 高橋由起子. 周手術期における感染対策, 感染防止 2013 年; 23 卷 3 号: 17-24.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 山下達也, 田村哲嗣, 速水 悟, 林 賢二, 西本 裕. 実環境における喀痰検出と肺音解析, 薬理と臨床 2012 年; 22 卷: 69-74.
- 2) 大野貴敏, 大島康司, 永野昭仁, 大野義幸, 西本 裕, 清水克時. 処理骨を用いて再建を行った悪性骨軟部腫瘍の治療成績, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2012 年; 55 卷: 491-492.
- 3) 永野昭仁, 大野貴敏, 大島康司, 西本 裕, 河村真吾, 清水克時. 脂肪腫に対する超音波破碎吸引装置 (CUSA) を用いた小皮切手術の治療成績, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2012 年; 55 卷: 503-504.
- 4) 井上俊之, 清水克時, 西本 裕. 軟骨マトリックス分解酵素としてのカルパイン 成長軟骨板, 変形性膝関節症軟骨でのカルパインによるアグリカン分解について, 岐阜県医師会医学雑誌 2012 年; 25 卷: 71-73.
- 5) 高橋由起子, 松田好美, 加藤直樹, 梅村俊彰, 岩田美智子. ブレンディッドラーニングシステムを活用した e-learning のアクセス履歴の分析, 岐阜看護研究会誌 2012 年; 4 号: 1-7.
- 6) 高橋由起子, 松田好美, 岩田美智子, 西本 裕, 伊藤友美, 梶間和枝. クリティカルケアに関する講演会に参加した看護師の院内外研修への参加状況と研修会への期待, 岐阜看護研究会誌 2013 年; 5 号: 33-41.
- 7) 榮枝裕文, 西本 裕, 青木隆明, 川崎晴久, 毛利哲也, 粥川正康. 前腕切断者を対象にした筋電義手に関する研究 表面筋電信号による筋電義手制御の実験, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2013 年; 56 卷: 103-104.
- 8) 加島卓磨, 山下達也, 田村哲嗣, 速水 悟, 林 賢二, 西本 裕. 心音と環境雑音の低減手法の検討と評価, 電子情報通信学会技術研究報告 (ME とバイオサイバネティクス) 2013 年; 113 卷: 93-98.
- 9) 寺村易予, 加藤博基, 櫻井幸太, 兼松雅之, 大野貴敏, 西本 裕, 大島康司, 永野昭仁, 小林一博, 廣瀬善信. 血管平滑筋腫の 5 例-MRI 所見とアザン染色を含めた病理所見の対比, 臨床放射線 2014 年; 59 卷: 449-453.
- 10) 後藤篤史, 大野貴敏, 西本 裕, 大島康司, 永野昭仁, 秋山治彦. Tumoral calcinosis の 4 例, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2014 年; 57 卷: 629-630.
- 11) 永野昭仁, 大野貴敏, 大島康司, 西本 裕, 松本 和, 秋山治彦. 遺伝性多発性外骨腫症に伴う前腕変形に対して延長術を施行した 5 例, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2014 年; 57 卷: 759-760.
- 12) 柴 裕子, 松田好美. 開腹術後患者における早期離床を促進する看護師の判断のプロセス, 日本看護研究学会雑誌 2014 年; 37 卷: 11-22.
- 13) 高橋由起子, 松田好美, 岩田美智子, 林 瑞穂. ブレンディッドラーニングを取り入れた術後室の準備に関する演習後の自己評価の分析, 岐阜看護研究会誌 2014 年; 6 号: 35-42.

原著 (欧文)

- 1) Kato H, Kanematsu M, Ohno T, Nishimoto Y, Oshima K, Hirose Y, Nishibori H. Is "black geode" sign a characteristic MRI finding for extracranial schwannomas?. J Magn Reson Imag. 2012;37:830-835. IF 2.788
- 2) Mizutani N, Watanabe T, Yano K, Aoki T, Nishimoto Y, Kobayashi Y. A wheelchair operation assistance control for a wearable robot using the user's residual function. IEEE Int Conf Rehabil Robot. 2013;1-6.

- 3) Mizutani N, Yamane M, Kato N, Yano K, Aoki T, Nishimoto Y, Kobayashi Y. Control of wearable motion assist robot for upper limb based on the equilibrium position estimation. Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc. 2013;2013:334-337.
- 4) Nagano A, Ohno T, Nishimoto Y, Oshima K, Shimizu K. Malignant solitary fibrous tumor of the lumbar spinal root mimicking schwannoma: a case report. Spine J. 2013;14:e17-20. IF 2.800
- 5) Kawasaki H, Ito S, Nishimoto Y, Ueki S, Ishigure Y, Mouri T. Hand Motion Assist Robot for Rehabilitation Therapy. J Robotics and Mechatronics. 2014;26:103-104.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：松田好美，研究分担者：高橋由起子，岩田美智子；学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究：心肺蘇生教育のためのポートフォリオ・システムの開発；平成 24-26 年度；2,500 千円(1,300：600：600 千円)
- 2) 研究代表者：高橋由起子，研究分担者：西本 裕，松田好美，岩田美智子；大学活性化経費(教育)：クリティカルケア看護領域の体験型スキルトレーニングプログラムの構築；平成 24 年度；500 千円
- 3) 研究代表者：高橋由起子，研究分担者：松田好美，西本 裕，岩田美智子，伊藤友美，梶間和枝，廣澤寛子；岐阜大学技術交流研究会：Gifu クリティカルケア看護情報研究会；平成 24 年度；150 千円
- 4) 研究代表者：高橋由起子，研究分担者：松田好美，西本 裕，岩田美智子，林 瑞穂，伊藤友美，梶間和枝；岐阜大学技術交流研究会：Gifu クリティカルケア看護情報研究会；平成 25 年度；150 千円
- 5) 研究代表者：高橋由起子，西本 裕，松田好美，岩田美智子，林 瑞穂；大学活性化経費(研究：科研採択支援)：急性期看護学におけるルーブリック評価を取り入れた e ポートフォリオの構築と学習効果；平成 25 年度；700 千円
- 6) 研究代表者：松田好美，研究分担者：西本 裕，高橋由起子，岩田美智子，林 瑞穂；大学活性化経費(教育)：課題解決型学習プログラム：災害時にあなたは どうしますか、何ができますか；平成 25 年度；350 千円
- 7) 研究代表者：松田好美，研究分担者：西本 裕，高橋由起子，岩田美智子，林 瑞穂；大学活性化経費(教育)：課題解決型学習プログラム：災害時・救急時に必要な知識・技術；平成 26 年度；400 千円
- 8) 研究代表者：高橋由起子，研究分担者：松田好美，西本 裕，伊藤美智子，林 瑞穂，三輪峰子，杉原博子，梶間和枝，林久美子，松宮良子；岐阜大学技術交流研究会：Gifu クリティカルケア看護情報研究会；平成 26 年度；150 千円
- 9) 研究代表者：伊藤美智子；科学研究費補助金若手研究(B)：クリティカルケア領域におけるデス・エデュケーションの構築；平成 26-28 年度；1,820 千円(780：650：390 千円)

2) 受託研究

- 1) 研究代表者：川崎晴久，研究分担者：西本 裕 他；平成 24 年度総務省戦略的情報通信研究開発推進制度：意志合意形成に基づくロボットハンド遠隔操作システムの研究開発；平成 24 年度；19,981 千円(分担者分 249,314 円)

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

西本 裕：

- 1) 日本整形外科学会代議員(～現在)
- 2) 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)

松田好美：

- 1) 日本看護学教育学会評議員(平成 24 年 8 月～現在)
- 2) 日本看護診断学会評議員(平成 25 年 7 月～現在)
- 3) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会実行委員(平成 26 年 9 月)

高橋由起子：

- 1) 岐阜県看護学会副委員長(平成 25 年 6 月～現在)
- 2) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会実行委員(平成 26 年 9 月)

伊藤美智子：

- 1) 日本クリティカルケア看護学会第 10 回学術集会実行委員(平成 26 年 5 月)
- 2) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会実行委員(平成 26 年 9 月)
- 3) 日本看護科学学会第 34 回学術集会実行委員(平成 26 年 11 月)

林 瑞徳：

- 1) 日本看護歴史学会第 28 回学術集会実行委員(平成 26 年 9 月)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

西本 裕：

- 1) 岐阜県社会保険診療報酬支払基金診療報酬請求審査委員会委員(～現在)
- 2) 岐阜県スポーツドクター協議会理事(～現在)
- 3) 岐阜県体育協会スポーツ医科学委員(～平成 25 年 3 月)
- 4) 岐阜労働局労災保険診療協議会委員(～現在)
- 5) 岐阜県国民健康保険等柔道整復療養費審査委員会委員(平成 24 年 4 月～現在)
- 6) 岐阜県体育協会スポーツ医科学協議会委員(平成 25 年 4 月～現在)
- 7) 岐阜市松籟団地自主防災隊(平成 25 年 4 月～現在)
- 8) 岐阜県体育協会理事(平成 25 年 6 月～現在)
- 9) 岐阜県スポーツ推進審議会委員(平成 26 年 10 月～現在)
- 10) 平成 24 年度岐阜県高校総体ボクシング競技医務(平成 24 年 5 月 20 日)
- 11) 平成 24 年度国民体育大会ボクシング競技岐阜県最終選考会医務(平成 24 年 8 月 24 日)
- 12) 第 67 回国民体育大会ぎふ清流国体ボクシング競技会医事委員(平成 24 年 10 月 3 日～8 日)
- 13) 平成 24 年岐阜県高等学校新人体育大会空手道競技救護(平成 24 年 10 月 20 日)
- 14) 第 25 回いびがわマラソン救護係(平成 24 年 11 月 11 日)
- 15) 平成 25 年度岐阜県高校総体ボクシング競技医務(平成 24 年 5 月 17 日)
- 16) 第 28 回長良川国際トライアスロン大会救護(平成 25 年 7 月 28 日)
- 17) 平成 25 年度国民体育大会ボクシング競技岐阜県最終選考会医務(平成 25 年 8 月 15 日)
- 18) 第 6 回岐阜県民スポーツ大会空手道競技救護(平成 25 年 9 月 15 日)
- 19) 第 68 回国民体育大会スポーツ祭東京 2013 岐阜県選手団総務(平成 25 年 10 月 2 日～4 日)
- 20) 平成 25 年岐阜県高等学校新人体育大会空手道競技救護(平成 25 年 10 月 13 日)
- 21) 第 26 回いびがわマラソン救護係(平成 25 年 11 月 10 日)
- 22) 2014 ジャパンパラ陸上競技大会医務(平成 26 年 9 月 5 日～7 日)
- 23) 第 7 回岐阜県民スポーツ大会空手道競技救護(平成 26 年 9 月 21 日)
- 24) 第 69 回国民体育大会長崎がんばらんば国体岐阜県選手団総務(平成 26 年 10 月)
- 25) 第 27 回いびがわマラソン救護係(平成 26 年 11 月 9 日)

高橋由起子：

- 1) 岐阜県看護協会研究倫理審査委員(平成 26 年 6 月～現在)

伊藤美智子：

- 1) 第 25 回いびがわマラソン AED 係(平成 24 年 11 月 11 日)
- 2) 第 26 回いびがわマラソン AED 係(平成 25 年 11 月 10 日)
- 3) 第 27 回いびがわマラソン AED 係(平成 26 年 11 月 9 日)

林 瑞穂：

- 1) 第 27 回いびがわマラソン AED 係(平成 26 年 11 月 9 日)

学会以外の研修会講師，招待講演

西本 裕：

- 1) 岐阜県認定上級指導者インテレクチュアルトレーナー養成講習会「アスリートの外傷・障害と対策」(平成 24 年 6 月 7 日)
- 2) 羽島郡スポーツ少年団認定員養成講習会「スポーツ指導者に必要な医学的知識」(平成 24 年 6 月 10 日，平成 25 年 6 月 9 日，平成 26 年 5 月 31 日)
- 3) 岐阜県ドーピング防止研修会「ドーピングを犯さないために」(平成 25 年 8 月 30 日，31 日，平成 26 年 6 月 28 日，8 月 30 日)
- 4) 第 3 回岐阜県保健担当者会議「学校における運動器検診を実施するに当たって」(平成 26 年 12 月 5 日)

松田好美：

- 1) 岐阜県立関高等学校 未来創造Ⅱ(先輩を囲む会)(平成 26 年 10 月 2 日)

10. 報告書

- 1) 高橋由起子，松田好美，加藤直樹：看護実践能力育成のためのブレンディッドラーニングシステムの構築とその学習効果：21-23 年度科学研究費補助金(基盤研究 C)総括：1-6(平成 24 年 3 月)
- 2) 糸川保二郎，船橋建司，西本 裕，高木永悟，岸田梨加：スポーツ医科学レポート第 2 回：ぎふ体協：81，72-76(平成 24 年 9 月)
- 3) 安田善治郎，喜久生明男，西本 裕，西脇勝巳，高木永悟：スポーツ医科学レポート第 1 回：ぎふ体協：81，66-71(平成 24 年 9 月)
- 4) 高橋由起子，西本 裕，松田好美，岩田美智子：クリティカルケア看護領域の体験型スキルトレーニングプログラムの構築：大学活性化経費(教育)：1-4(平成 24 年 12 月)
- 5) 高橋由起子，西本 裕，松田好美，岩田美智子，林 瑞穂：急性期看護学におけるルーブリック評価を取り入れた e ポートフォリオの構築と学習効果：大学活性化経費(研究：科研採択支援)：1-4(平成 25 年 12 月)
- 6) 松田好美，西本 裕，高橋由起子，岩田美智子，林 瑞穂：課題解決型学習プログラム；災害時にあなたはどのようにしますか、何ができますか：大学活性化経費(教育)：1-4(平成 26 年 12 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

成人急性期看護学分野の研究は多岐にわたっており，教員各々が主要なテーマを持ち，分野全体で協力しながら研究を実践している。著書・論文数などは著書 19 編，原著論文 13 編と，少しずつ増えてきている。また競争的資金として学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究 1 件，大学活性化経費(研究：科研採択支援) 1 件および岐阜大学活性化経費(教育) 3 件を獲得している。総合的評価としておおむね目標を達成できたと評価するが，看護に関する欧文原著論文の作成が不足している。

現状の問題点及びその対応策

教育活動に主眼を置き研究活動の時間確保が難しいのは例年通りである。しかし教員も定着しつつあ

る（H27年3月より1名産休・育休）。論文執筆の時間の確保が難しい状況であるが、4月からは産休代替教員と協力し、効率を考えた活動により、各々の専門性を生かした研究体制の構築を図りたい。

今後の展望

各々の専門性を生かしながら、分野としての共通テーマに沿った共同研究を推進していく予定である。学内のみならず臨床との共同研究の可能性を図りたい。競争的資金の獲得については、科学研究費、学内競争的資金にとどまらず、各種団体の研究助成への申請を積極的に推進したい。また将来的には若手研究員の研究力向上のためには、内地留学や在外研修への派遣も考慮したい。

(3) 老年看護学分野

1. 研究の概要

老年看護学分野では、高齢者の QOL を維持・向上するためにその「持てる力」を重視し、「その人らしい生活の維持」を目指したケアに関する研究を行ってきた。特に、認知症を有する高齢者ケアに関する研究は、介護施設における認知症ケアばかりでなく、一般病院における認知症ケアをどう進めていったらよいのか明らかにしようとして取り組んでいる。また、平成 25 年度から老年看護学実習にパートナーシップナーシングの考え方を取り入れ、学生による「ペア実習」を実施している。高齢者ケアを担う看護職者には、病態的、身体機能的、精神的、社会的な側面から高齢者を総合的にアセスメントできる観察力が必要である。この実習は観察力の訓練にもつながり、老年看護学教育方法に関する研究の一環として取り組んでいく予定である。

2. 名簿

教授： 松波美紀 Miki Matsunami
准教授： 小木曾加奈子 Kanako Ogiso
助教： 温水理佳 Rika Nukumizu
助教： 吉川美保 Miho Yoshikawa

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 阿部隆春, 安藤邑恵, 伊藤義明, 今井七重, 今津尚人, 白井浪子, 梅田雅子, 小木曾加奈子, 齋藤隆司, 齋藤妙子, 佐藤八千子, 重松義成, 高井道子, 高木房代, 武井浩子, 田村禎章, 温水理佳, 坪井寿夫, 西村志織, 西本 円, 祢宜佐統美, 服部藤高, 彦坂 亮, 平澤泰子, 本荘鈴子, 宮崎則夫, 森由香子, 森永牧子, 山下科子, 吉澤進治, 吉田章子, 渡邊美幸, 佐藤八千子, 小木曾加奈子監修, 阿部隆春, 安藤邑恵, 小木曾加奈子, 佐藤八千子, 祢宜佐統美, 平澤泰子, 山下科子編. 認知症がある人をケアする-BPSD による生活場面の困難さ. 初版, 東京: 学文社; 2012 年: 15-28, 115-128.
- 2) 安藤邑恵, 今井七重, 今井 一, 小木曾加奈子, 乙村 優, 上平公子, 河口尚子, 近藤邦代, 柴田由美子, 正村静子, 高野晃伸, 棚橋千弥子, 樋田小百合, 服部紀子, 林由美子, 松井いづみ, 真野啓子, 八島妙子, 山下科子, 渡辺美幸. 小木曾加奈子監修, 今井七重, 中山かおり編. 看護師必修問題集攻略ブック 13 年度版 初版, 東京: 成美堂出版; 2012 年.
- 3) 安藤邑恵, 今井七重, 今井 一, 小木曾加奈子, 乙村 優, 上平公子, 河口尚子, 近藤邦代, 柴田由美子, 正村静子, 高野晃伸, 棚橋千弥子, 樋田小百合, 中山かおり, 服部紀子, 林由美子, 松井いづみ, 真野啓子, 山下科子, 渡辺美幸. 小木曾加奈子監修, 今井七重, 中山かおり編. 看護師必修問題集攻略ブック 14 年度版 初版, 東京: 成美堂出版; 2013 年.
- 4) 田中貴美子, 児島美都子, 伊藤二紀子, 内山治夫, 小木曾加奈子, 河口尚子, 児島美都子, 近藤修司, 佐藤和子, 谷口亘, 中島留宇子, 祢宜佐統美, 野村文枝, 原田 亘. 児島美都子, 田中貴美子, 青木みか, 内山治夫, 田中貴美子編. 福祉をつむぐ 初版, 名古屋: 風媒社; 2013 年: 120-136.
- 5) 石原多佳子, 今井 一, 今井七重, 小木曾加奈子, ダーリンブル規子, 田中千絵, 玉置真理子, 留田由美, 松野ゆかり, 宮嶋 淳, 矢野 優. 今井七重, 宮嶋 淳編. 子ども・子育て概論 初版, 京都: 久美出版; 2013 年: 60-65.
- 6) 安藤邑恵, 今井七重, 今井 一, 小木曾加奈子, 乙村 優, 上平公子, 河口尚子, 近藤邦代, 柴田由美子, 正村静子, 高野晃伸, 棚橋千弥子, 樋田小百合, フラビエかおり, 服部紀子, 林由美子, 松井いづみ, 真野啓子, 山下科子, 渡辺美幸. 小木曾加奈子監修, 今井七重, フラビエかおり編. 看護師必修問題集攻略ブック 15 年度版 初版, 東京: 成美堂出版; 2014 年.
- 7) 石原多佳子, 今井 一, 今井七重, 小木曾加奈子, ダーリンブル規子, 田中千絵, 玉置真理子, 留田由美, 松野ゆかり, 宮嶋 淳, 矢野 優. 今井七重, 宮嶋 淳編. 子ども・子育て概論 初版, 京都: 久美出版; 2014 年.
- 8) 吉川美保, 分担執筆. 高齢者のこころとからだ事典 初版, 東京: 中央法規出版; 2014 年: 260-261.
- 9) 温水理佳, 分担執筆. 高齢者のこころとからだ事典 初版, 東京: 中央法規出版; 2014 年: 300-303.
- 10) 松波美紀, 分担執筆. 高齢者のこころとからだ事典 初版, 東京: 中央法規出版; 2014 年: 304-307.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 小木曾加奈子. 「なぜ？」研究の出発点, ソーシャルワークぎふ 2014 年; 20 号: 49-53.
- 2) 小木曾加奈子. 特別養護老人ホームにおけるインシデント・アクシデントの実践的研究の試み, ソーシャルワークぎふ 2014 年; 20 号: 54-61.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 平井浩二, 森山あゆみ, 谷口弘子, 山口美江, 大野弘子, 吉川美保. 素材の異なる2つのピーズクッションの有効性・安楽性に関する比較検討, 第42回日本看護学会論文集—成人看護I 2012年: 96-98.
- 2) 小谷真紀子, 足立和代, 伊澤 綾, 松波美紀, 吉川美保. 退院後の施設入所を選択した家族介護者と病棟看護師の介護負担に関する思いのずれ, 第42回日本看護学会論文集—地域看護 2012年: 182-185.
- 3) 温水理佳, 松波美紀, 太田智子, 箕浦とき子, 吉川美保, 安藤恵美, 樋田小百合, 松原 薫, 熊田ますみ. 入院加療中の認知症のある高齢者の看護を考える—岐阜県内病院で働く看護師とのワークショップ—, 岐阜看護研究会誌 2012年; 4巻: 129-135.
- 4) 山下科子, 小木曾加奈子, 平澤泰子, 阿部隆春, 佐藤八千子, 今井七重, 樋田小百合, 棚橋千弥子, 柴田由美子. 看護職が認識する介護老人保健施設での役割-高齢者看護の実践を通して-, 第42回日本看護学会論文集—老年看護 2012年: 69-72.
- 5) 清水美加子, 桑田美穂, 楠原順子, 今井七重, 小木曾加奈子. 看護師の配薬方法の現状と課題, 第42回日本看護学会論文集—老年看護 2012年: 73-76.
- 6) 今井七重, 小木曾加奈子, 佐藤八千子. 地域住民が考える世代間交流に対する認識—世代間交流の体験を視野に入れて-, 日本看護福祉学会誌 2012年; 17巻: 39-50.
- 7) 小木曾加奈子. パーソンド・センタード・ケアに基づく「よい出来事の記録」, ソーシャルワークぎふ 2012年; 18号: 31-46.
- 8) 佐藤八千子, 小木曾加奈子, 山下科子, 平澤泰子, 阿部隆春, 今井七重, 樋田小百合, 棚橋千弥子, 柴田由美子. 介護老人保健施設における認知症ケアで困ったこと—看護職と介護職の認識の違いに着目して-, ソーシャルワークぎふ 2012年; 18号: 47-56.
- 9) 小木曾加奈子. 医療職と福祉職のためのリスクマネジメントの実践—介護・医療サービスの向上を視野に入れて-, 日本福祉図書館学会誌 2012年; 11号: 71-74.
- 10) 小木曾加奈子. フェイススケールを用いた変化の推移による認知症のある高齢者ケアの検討, 人間福祉学会誌 2012年; 12巻: 1-9.
- 11) 橋川健祐, 小木曾加奈子, 田村慎章. 介護職員の確保と定着に向けた介護労働環境への支援に関する一考察—介護老人保健施設における介護職員の職務満足度に関する調査結果から—, 人間福祉学会誌 2012年; 12巻: 99-108.
- 12) 早川巴誉, 小木曾加奈子, 田村慎章, 橋川健祐. 介護サービスの種別による認知症高齢者の受け入れ状況の現状, 社会福祉士会誌 2013年; 20号: 64-72.
- 13) 桑田佐代子, 小木曾加奈子, 今井七重. 中規模病院における看護職種の職務満足度の現状と課題「やりがいを感じる時」「やる気をなくす時」「働きやすい職場とは」, 第43回日本看護学会論文集-看護管理- 2013年: 127-130.
- 14) 小木曾加奈子, 佐藤八千子, 今井七重, 阿部隆春, 祐宜佐統美, 平澤泰子, 樋田小百合, 山科科子, 安藤邑恵. ICFの視点に基づく「認知症ケア尺度」の開発-現任教育における活用に向けて-, 教育医学学会誌 2013年; 58巻: 321-331.
- 15) 小木曾加奈子, 今井七重. 介護老人保健施設の看護職が認識する看護学生に必要な学び, 日本看護福祉学会誌 2013年; 18巻: 55-66.
- 16) 大中美保子, 今井七重, 小木曾加奈子. 地域の中小規模病院における外来看護の方向性; 患者評価を通して, 第43回日本看護学会論文集-地域看護- 2013年: 151-154.
- 17) 小木曾加奈子, 田村慎章, 橋川健祐. 三重県の介護事業所におけるBPSDがある認知症高齢者の受け入れと職務環境整備の関係, 中部社会福祉学研究会誌 2013年; 4号: 1-10.
- 18) 小木曾加奈子, 佐藤八千子, 今井七重. 介護事業所における介護職員の職務満足・転職・離職に関する探索的研究, ソーシャルワークぎふ 2013年; 19号: 37-46.
- 19) 小木曾加奈子, 平澤泰子, 阿部隆春, 山下科子, 佐藤八千子, 棚橋千弥子, 柴田由美子, 祐宜佐統美, 安藤邑恵, 今井七重, 樋田小百合. 介護老人保健施設における「その人らしさ」と「関係性」を大切にされた認知症ケアの実際, 日本社会福祉科学研究 2013年; 2巻: 77-84.
- 20) 小木曾加奈子, 安藤邑恵. パーソン・センタード・ケアの視点に基づく全人的なケアの思想と手法を用いたケアの実際; ケアスタッフが変化し成長を遂げる過程からの検討, 日本社会福祉科学研究 2013年; 2巻: 85-94.
- 21) 小木曾加奈子, 平澤泰子, 阿部隆春, 祐宜佐統美, 山下科子, 安藤邑恵, 佐藤八千子, 今井七重. 認知症高齢者の「易怒・興奮」の言動とよい反応を得られたケア-介護老人保健施設における看護職と介護職の捉え方の違いに着目して-, 人間福祉学研究 2013年; 6巻: 1-14.
- 22) 小木曾加奈子, 佐藤八千子, 安藤邑恵, 祐宜佐統美, 平澤泰子, 今井七重. 認知症がある人をケアする-BPSDによる生活場面の困難さ-, 日本福祉図書館学会誌 2013年; 12号: 75-79.
- 23) 小木曾加奈子, 平澤泰子, 山下科子, 祐宜佐統美, 佐藤八千子, 安藤邑恵, 阿部隆春, 今井七重. 認知症高齢者の行動的攻撃(暴力)の言動とよい反応を得られたケアについて-看護職と介護職の捉え方の違いに着目して-, 人間福祉学会誌 2013年; 13巻: 59-68.
- 24) 小木曾加奈子, 安藤邑恵, 佐藤八千子. ケア実践者が認識する介護老人保健施設における認知症高齢者の「拒薬・拒食・拒絶」の現状, 老年看護学会誌 2013年; 18巻: 74-81.
- 25) 小木曾加奈子, 佐藤八千子, 今井七重. 特別養護老人ホームにおけるユニットケアと職務満足度の関係,

中部社会福祉学研究 2014年；5号：41-50.

- 26) 小木曾加奈子, 佐藤八千子, 今井七重. 特別養護老人ホームのユニットにおける認知症ケアの現状・ユニットケアの効果とICFの視点に基づいた認知症ケアとの関係, 日本看護福祉学会 2014年；19巻：45-57.
- 27) 小木曾加奈子, 安藤邑恵, 佐藤八千子. 介護老人保健施設における認知症高齢者のBPSDに対する認識の傾向-デルファイ法を用いた意見収束の試み-, ソーシャルワークぎふ 2014年；20号：62-73.
- 28) 小木曾加奈子, 阿部隆春, 平澤泰子, 佐藤八千子, 棚橋千弥子, 柴田由美子, 祢宜佐統美, 安藤邑恵, 今井七重. 「その人らしさ」・「関係性」・「個別性」を生かした認知症ケアと職務満足度の関係, 社会福祉科学研究 2014年；3号：47-58.
- 29) 小木曾加奈子, 田村禎章. 介護事業所における職員間のコミュニケーションと職務環境整備の関係-介護人材の教育と研修を視野に入れて-, 日本教育医学 2014年；59巻：231-241.
- 30) 小木曾加奈子, 山下科子, 佐藤八千子, 安藤邑恵, 平澤泰子, 祢宜佐統美. AHP 理論に基づいた BPSD サポート尺度作成における検討, 地域福祉サイエンス 2014年；1号：147-152.
- 31) 小木曾加奈子, 平澤泰子, 阿部隆春, 山下科子, 祢宜佐統美, 佐藤八千子, 安藤邑恵, 今井七重. 医療ニーズが求められる現状に対する課題-介護療養型医療施設・介護老人保健施設・特別養護老人ホームにおけるケア実践者の認識の違い, 人間福祉学 2014年；14巻：51-56.

原著 (欧文)

- 1) Ogiso K, Ando S, Hirasawa Y, Abe T, Yamashita S, Imai N, Negi S, Sato Y. Practice of Dementia Care using the Standards in Dementia Care Nursing Version - A frame work of Dementia Care with a Focus on the "Personhood," "Relationships," and "Individuality" of Patients-. The Journal of Education and Health Science. 2014;59:211-222.
- 2) Ogiso K, Ando S, Hirasawa Y, Negi S, Sato Y, Ando S, Yamashita S, Imai N. The Present situation of "irritability and excitement," "drug refusal, refusal of food, and rejection," "act of aggression (violence)," and "unhygienic behavior" in special nursing homes for the elderly. Japanese Society for the Study Welfare Books and Literature. 2014;14:35-46.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：松波美紀；科学研究費補助金基盤研究(C)：急性期医療における認知症高齢者の「持つ力」を活用した看護ケアプログラムの開発；平成 22-24 年度；2,730 千円(1,170：910：650 千円)
- 2) 研究代表者：小木曾加奈子；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：BPSD サポート尺度によるアウトカムと認知症ケア充実感と職務満足度と離職意向の関係；平成 24-27 年度；4,100 千円(1,300：600：1,100：1,100 千円)
- 3) 研究代表者：松波美紀；科学研究費補助金基盤研究(C)：医療現場における認知症高齢者の「持つ力」を活用したチームケアのあり方；平成 25-28 年度；4,160 千円(2,210：650：650：650 千円)
- 4) 研究代表者：祢宜佐統美, 研究分担者：小木曾加奈子；科学研究費補助金基盤研究(C)：特別養護老人ホームの看取り介護の実践と職務満足度；平成 25-28 年度；3,800 千円(1,100：800：800：1,100 千円)
- 5) 研究代表者：平澤泰子, 研究分担者：小木曾加奈子；科学研究費補助金基盤研究(C)：医療的ケアに対応できる介護福祉士教育プログラムの創設と実践；平成 25-28 年度；3,700 千円(1,300：600：800：1,000 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

小木曾加奈子：

- 1) 東海学校保健学会会計監査(平成 24 年度)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演、招待シンポジスト、座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

松波美紀：

- 1) 日本学術振興科学研究費委員会専門委員(平成 25 年度)
- 2) 日本学術振興科学研究費委員会専門委員(平成 26 年度)
- 3) 岐阜県教員免許更新講習(平成 26 年 8 月, 岐阜, 「超高齢社会を支える世代に、認知症をどう伝えるか」)

温水理佳：

- 1) 岐阜県教員免許更新講習(平成 26 年 8 月, 岐阜, 「超高齢社会を支える世代に、認知症をどう伝えるか」)

吉川美保：

- 1) 岐阜県教員免許更新講習(平成 26 年 8 月, 岐阜, 「超高齢社会を支える世代に、認知症をどう伝えるか」)

10. 報告書

- 1) 松波美紀：急性期医療における認知症高齢者の『持てる力』を活用した看護ケアプログラムの開発：平成 22-24 年度科学研究費補助金基盤研究(C)報告書(平成 25 年 5 月)
- 2) 平澤泰子, 小木曾加奈子：医療的ケアに対応できる介護福祉士教育プログラムの創設と実践-教育プログラム-：平成 25-28 年度科学研究費補助金基盤研究(C) 教育プログラム：1-189 (平成 26 年 4 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

看護学科の運営に係る諸活動、老年看護学分野における教育活動を中心にして、教育および研究に充実した活動ができた」と評価する。老年看護学分野で取り組んでいる認知症を有する高齢者ケアに関する研究は、医療現場における研究課題、介護施設における研究課題と 2 つの側面から取り組み、それぞれの研究で科学研究費補助金も獲得できている。これらの研究は、地域の医療現場、介護現場で働く看護・介護職との連携なしで行えるものではなく、協働研究として順調に進めることができている。また、研究活動の成果を少しずつであるが、教育にも反映させることができている。

現状の問題点及びその対応策

老年看護学分野には定数 4 名の教員がいるが、看護学教育において老年看護学分野が担う部分は、実習時間数等、他分野に比較すると多い。また超高齢社会という背景の中で、地域一般に向けた教育などの社会的活動の要請も多い。その中で研究活動を円滑に進めていくことは難しい。特に教員 4 名の教育活動と研究活動のバランスがとれていない。研究活動ばかりに偏る教員がいれば、他の教員の教育活動の負担は重くなるという現状がある。今後教員は、自己の能力を見極め、老年看護学分野が担っている教育活動全般を見直し、その内容に応じた個々の役割を認識することが必要である。それぞれの教員が

教育と研究のバランスを上手く保ちながら活動でき、個々の教員が取り組んでいる研究成果を発表していけるような環境を協力し合って作っていけるとよいと考える。

今後の展望

現在取り組んでいる研究課題は、いずれも重要で意義深い内容ばかりである。今後はこれら研究を更に充実させ、研究成果を論文として公表することにつなげていきたいと考える。また、超高齢社会を支える世代への教育活動を充実させること自体も重要である。教育方法等の工夫を重ね、教育面からの発信もしていきたいと考える。

〔地域・精神看護学講座〕

(1) 地域看護学分野

1. 研究の概要

地域看護学分野においては、地域保健、産業保健、学校保健等の公衆衛生看護分野における研究と訪問看護に関する在宅医療看護分野の研究がおこなわれている。いずれの研究も、現場の課題に着目した研究テーマが多く、その成果は、公衆衛生や在宅看護の現場に還元されるものである。研究方法は、広く公衆衛生学・疫学及び看護学の研究手法を用いている研究が多い。具体的な研究テーマとしては、最近の公衆衛生分野の関心事である禁煙に関するもの、例えば地域における禁煙教育の介入効果を把握する研究を始め、地域保健活動に関する研究、保健師とその活動に関する研究、訪問看護ステーションの管理運営に関する研究、高齢者の虐待予防に関する研究、介護予防に関する研究など多岐にわたっている。対象者も保健師や看護師など専門職を対象とした調査、地域住民、高齢者、学生などさまざまな年齢層を対象としている。

このように、地域看護学分野における研究は、あらゆる年代の人々を対象として、健康増進から疾病予防、社会復帰にいたる多様な健康レベルの人々とそれに係る公衆衛生分野の専門職に関する研究など、多彩な研究がなされている。

<主な研究テーマ>

- 1) 保健師教育に関する研究
- 2) 高齢者虐待予防に関する研究
- 3) 青少年の喫煙・飲酒・薬物乱用とライフスタイルの関連性についての研究
- 4) 地域における禁煙教育に関する研究
- 5) 訪問看護ステーションの経営効率化に関する研究
- 6) 現任訪問看護師教育に関する研究
- 7) 訪問看護師のリスクマネジメントに関する研究

2. 名簿

教授：	石原多佳子	Takako Ishihara
准教授：	三好美浩	Yoshihiro Miyoshi
准教授：	瀬瀬朋弥	Tomomi Kouketsu
准教授：	小林和成	Kazunari Kobayashi
助教：	玉置真理子	Mariko Tamaoki

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
なし

総説（和文）

- 1) 三好美浩. 青少年の喫煙・飲酒・薬物乱用に関するモニタリング調査の過去・現在・未来, 学校保健研究 2012年; 54巻: 135-136.

総説（欧文）
なし

原著（和文）

- 1) 三好美浩, 勝野眞吾. 高校生の喫煙・飲酒・薬物乱用とライフスタイルとの関連における性差 - 2009年 JSPAD 調査からの成果 -, 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2012年; 47巻: 211-233.
- 2) 田中千晶, 藤原佳典, 安永正史, 桜井良太, 斎藤京子, 金 憲経, 深谷太郎, 野中久美子, 小林和成, 吉田裕人, 内田勇人, 新開省二, 渡辺修一郎. 複合健康増進プログラムが地域在住高齢者の日常的な身体活動量へ与える影響 - 無作為比較試験による検討 -, 日本老年医学会雑誌 2012年; 49巻: 372-374.
- 3) 王麗華, 磯山 優, 木内妙子, 太田浩子, 小林和成, 大野絢子. 子どもの在宅ケアにおける連携の実態に関する研究 - 訪問看護ステーションを中心に -, 群馬パース大学紀要 2012年; 13号: 15-20.
- 4) 瀬瀬朋弥, 石原多佳子, 玉置真理子, 後閑容子, 大和 浩, 本多 融, 小林鈴香. 家庭における受動喫煙

曝露状況に関する調査, 保健師ジャーナル 2012年; 68巻: 518-523.

- 5) 大和 浩, 本多 融, 額額朋弥, 中瀬勝則. 禁煙の場はどの範囲が適切か, Heart View 2012年; 16巻: 58-62.
- 6) 大和 浩, 本多 融, 額額朋弥. 受動喫煙(2次喫煙)の罪, 日本胸部臨床 2012年; 71巻: 664-674.
- 7) 池上由美子, 後閑容子, 石原多佳子, 額額朋弥. 精神保健福祉業務担当の保健所保健師の精神保健業務についての認識と能力の自己評価—精神保健業務担当年数3群別の比較—, 厚生指標 2012年; 59巻: 23-31.
- 8) 額額朋弥, 石原多佳子, 小林和成, 玉置真理子, 野崎加世子, 山之腰由香, 中川奈緒美, 本間由佳里, 中川みのり. 訪問看護ステーションにおけるスタッフの新任者教育の受講の現状と課題, 第1回岐阜看護学会論文集 2012年: 41-44.
- 9) 玉置真理子, 石原多佳子, 小林和成, 額額朋弥, 野崎加世子, 山之腰由香, 中川奈緒美, 本間由佳里, 中川みのり. 訪問看護ステーションにおける管理者の新任者教育の取り組みの現状と課題, 第1回岐阜看護学会論文集 2012年: 37-40.
- 10) 額額朋弥, 後閑容子, 石原多佳子, 玉置真理子, 後藤忠雄, 小林鈴香. 妊娠判明後のパートナーの喫煙行動の変化と関連要因, 公衆衛生雑誌 2013年; 60巻: 212-221.
- 11) 三好美浩, 勝野眞吾, 和田 清. 全国高校生におけるクラブ活動および運動と喫煙・飲酒・薬物乱用との関連—2004, 2006, 2009年JSPAD調査のボンド・サンプルの結果—, 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2013年; 48巻: 426-444.
- 12) 若杉里実, 三好美浩, 今野香織. 保健師の効き脳とチーム活動との関連, 愛知医科大学看護学部紀要 2013年; 12巻: 11-18.
- 13) 森 礼子, 後閑容子, 石原多佳子. 保健師の地域DOTSにおける初回面接時の支援—服薬完遂者と服薬中断者との比較, 結核 2013年; 88巻: 739-746.
- 14) 細井智子, 後閑容子, 石原多佳子. 母親のしつけの認識に関する研究, 保健師ジャーナル 2013年; 69巻: 376-385.
- 15) 細田きく子, 額額朋弥, 石原多佳子, 後閑容子. 豪雪山間地域における女性介護者の介護意思を支える経験と認識—妻・娘・嫁の立場から—, 民族衛生 2013年; 79巻: 159-178.
- 16) 小島ひとみ, 石原多佳子. 児童福祉施設より家庭復帰した後の被虐待児と家族の家族再統合に向けたアセスメントの視点—児童福祉司と保健師に焦点をあてて—, 岐阜看護研究会誌 2014年; 6巻: 15-23.
- 17) 天野菜穂子, 大平邦子, 石原多佳子, 宮本正一. 1人職場である養護教諭のための教職実践演習, 教師教育研究 2014年; 第10号: 119-124.

原著 (欧文)

なし

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 三好美浩; 科学研究費補助金研究活動スタート支援: 青少年のライフスタイルを評価する筆問項目のための疫学的調査研究; 平成23-24年度; 2,400千円(1,400: 1,000千円)
- 2) 研究代表者: 勝野眞吾, 研究分担者: 鬼頭英明, 西岡伸紀, 三好美浩; 科学研究費補助金基盤研究(B): 青少年の薬物乱用に関するモニタリングとデータアーカイブ構築; 平成24年度; 100千円
- 3) 研究代表者: 額額朋弥, 研究分担者: 後閑容子, 石原多佳子, 玉置真理子; 科学研究費補助金基盤研究(C): 地域で行う妊産婦とパートナーを対象とした禁煙サポートプログラムの開発; 平成22-25年度; 4,000千円(1,340: 970: 650: 1,040千円)
- 4) 研究代表者: 玉置真理子, 研究分担者: 石原多佳子, 額額朋弥, 後閑容子; 学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究: 地域包括支援センターに所属する保健師活動の専門性に関する研究; 平成24-26年度; 351千円(130: 117: 104千円)
- 5) 研究代表者: 三好美浩; 平成25年度大学活性化経費(研究): 青少年の運動習慣が及ぼす薬物乱用への影響に関する研究; 平成25年度; 450千円
- 6) 研究代表者: 石原多佳子, 研究分担者: 額額朋弥, 小林和成, 後閑容子, 表志津子; 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究: 高齢者虐待における虐待者と被虐待者分離後の支援プログラムの開発; 平成25-27年度; 2,900千円(700: 1,200: 1,000千円)
- 7) 研究代表者: 額額朋弥, 研究分担者: 小林和成, 石原多佳子, 後閑容子, 野田洋子; 科学研究費補助金基盤研究(C): 地域介入による妊産婦とパートナーを対象とした禁煙サポートプログラムの効果の検証; 平成26-29年度; 4,810千円(1,170: 1,430: 1,040: 1,170千円)
- 8) 研究代表者: 石原多佳子, 研究分担者: 小林和成, 額額朋弥, 小島ひとみ; 平成26年度岐阜大学活性化経費(地域連携): 地域健康福祉推進計画策定に係る学生参加型の官学連携による看護職教育プログラムの構築; 平成26年度; 400千円
- 9) 研究代表者: 小林和成, 研究分担者: 石原多佳子, 額額朋弥, 小島ひとみ, 中島美奈子; 平成26年

度地域志向学プロジェクト(地域志向教育プロジェクト):地域における看護活動の初期体験学習プログラムの構築;平成26年度;200千円

- 10) 研究代表者:三好美浩;平成26年度岐阜大学大学活性化経費(研究):青少年の健康なライフスタイルのあり方を評価するための薬物乱用モニタリングの研究;平成25年度;560千円

2) 受託研究

- 1) 小林和成:平成25年度 草津町における介護予防事業の評価に関する研究;平成25年度;100千円:群馬県草津町役場
- 2) 小林和成:平成26年度 草津町における介護予防事業の評価に関する研究;平成26年度;100千円:群馬県草津町役場

3) 共同研究

- 1) 研究代表者:野崎加世子, 共同研究者:山之腰由香, 中川奈緒美, 中川みのり, 本間由佳里, 石原多佳子, 小林和成, 瀨瀬朋弥, 玉置真理子;平成24年度 日本訪問看護振興財団訪問看護研究助成金:新任時期の訪問看護育成プログラムの検討—育成プログラム開発とその試行—;300千円
- 2) 研究代表者:山之腰由香, 共同研究者:中川みのり, 中川奈緒美, 石原多佳子, 瀨瀬朋弥, 小林和成, 玉置真理子;平成24年度訪問看護等在宅ケア研究助成 勇美記念財団:新任時期の訪問看護師育成プログラムと評価表の開発;1,262千円
- 3) 研究代表者:山崎仁朗, 共同研究者:石原多佳子, 西本 裕, 瀨瀬朋弥, 小林和成, 高木和美;平成26年度地域志向学プロジェクト(研究プロジェクトA):インターネットを介した見守りシステムによる高齢者生活支援と地域コミュニティ再生の可能性にかんする研究;700千円

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

石原多佳子:

- 1) 第1回日本公衆衛生看護学会学術集会実行委員(平成24年)
- 2) 第43回日本看護学会・地域看護実行委員(平成24年)
- 3) 日本地域看護学会国際交流推進委員(平成24年～現在)
- 4) 日本老年看護学会第19回学術集会実行委員(平成26年)
- 5) 日本看護歴史学会第28回学術集会実行委員(平成26年)

小林和成:

- 1) 第1回日本公衆衛生看護学会学術集会実行委員(平成24年)
- 2) 文化看護学会広報委員, HP管理者(~平成25年)
- 3) 日本老年看護学会第19回学術集会実行委員(平成26年)
- 4) 日本看護歴史学会第28回学術集会実行委員(平成26年)
- 5) 第7回文化看護学会実行委員(平成26年)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

石原多佳子:

- 1) 日本地域看護学会誌査読委員(平成24年～現在)
- 2) 日本在宅ケア学会誌査読委員(平成24年～現在)
- 3) 岐阜看護学会論文選考委員(平成25年)
- 4) 日本公衆衛生看護学会誌査読委員(平成24年～現在)

7. 学会招待講演、招待シンポジスト、座長

石原多佳子：

- 1) 第 56 回老年社会学会(平成 26 年 6 月, 下呂, 座長)
- 2) 第 17 回日本地域看護学会(平成 26 年 8 月, 岡山, 座長)

三好美浩：

- 1) 第 59 回日本学校保健学会(平成 24 年 11 月, 兵庫, 一般口演「喫煙, 飲酒, 薬物乱用」座長)

額瀨朋弥：

- 1) 第 16 回日本母性看護学会学術集会(平成 26 年 4 月, 京都, シンポジウム「妊産婦・子育て期の禁煙行動支援」シンポジスト)
- 2) 第 17 回子どもの防煙研究集会(平成 26 年 4 月, 愛知, 講演「地域で行う妊産婦とパートナーを対象とした禁煙サポート」講師)

小林和成：

- 1) 第 43 回日本看護学会—地域看護—学術集会(平成 24 年 9 月, 岐阜, 一般口演「地域看護教育」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 三好美浩：第 20 回日本アルコール・薬物医学会 優秀論文賞：全国高校生におけるクラブ活動および運動と喫煙・飲酒・薬物乱用との関連：2004, 2006, 2009 年 JSPAD 調査のボンド・サンプルの結果
- 2) 三好美浩：第 20 回日本アルコール・薬物医学会優秀論文賞受賞(平成 26 年度)

9. 社会活動

石原多佳子：

- 1) 滋賀県米原市地域包括支援センター運営協議会委員(～平成 26 年)
- 2) 滋賀県米原市高齢者虐待防止ネットワーク会議委員(～平成 26 年)
- 3) 岐阜県立陽光園経営委員(～平成 26 年)
- 4) 岐阜県看護協会訪問看護支援部会委員(～現在)
- 5) 岐阜県揖斐川町の地域包括支援センター事業への支援協力(平成 25 年)

小林和成：

- 1) 岐阜県山県市の保健事業への支援協力員(平成 24 年～現在)
- 2) 岐阜県山県市の地域包括支援センター事業への支援協力員(平成 24 年～現在)
- 3) 岐阜県山県市の山県市健康増進計画 健康山県 21 推進委員(平成 25 年～現在)
- 4) 群馬県草津町の保健事業への支援協力員(～現在)
- 5) 群馬県草津町の地域包括支援センター事業への支援協力員(～現在)
- 6) 岐阜県恵みの森づくり推進モデル事業のプロジェクトチームへの参画(平成 25 年)
- 7) 岐阜県揖斐川町の地域包括支援センター事業への支援協力(平成 25 年)
- 8) 有限会社耕グループへの支援協力(平成 26 年)

額瀨朋弥：

- 1) 19 学会禁煙推進学術ネットワーク会議事務局(～現在)

10. 報告書

- 1) 三好美浩：青少年の健康なライフスタイルに関する調査 2011—高校生 A 調査—(研究課題番号 23800028 平成 23～24 年度科学研究費補助金(研究活動スタート支援)研究代表者三好美浩), 報告書(速報), 岐阜大学(平成 24 年)
- 2) 三好美浩：青少年の健康なライフスタイルに関する調査 2011—高校生 B 調査—(研究課題番号 23800028 平成 23～24 年度科学研究費補助金(研究活動スタート支援)研究代表者三好美浩), 報告書(速報), 岐阜大学(平成 24 年)
- 3) 勝野眞吾, 中村光浩, 三好美浩, 吉本佐雅子, 和田 清, 西岡伸紀, 鬼頭英明：高校生の喫煙, 飲酒, 薬物乱用の実態と生活習慣に関する調査 2009(研究課題番号 21300244 平成 21～24 年度科学研究

費補助金(基盤研究(B))研究代表者勝野眞吾, 報告書, 岐阜薬科大学(平成 24 年)

- 4) 勝野眞吾, 中村光浩, 三好美浩, 和田 清, 薛圭周, 宋昇勲: 韓国高校生の喫煙, 飲酒, 薬物乱用の実態と生活習慣に関する調査 2008 報告書. 岐阜薬科大学(平成 24 年)
- 5) 勝野眞吾, Vu Minh Chau, 杉山 正, 中村光浩, 三好美浩, 和田 清, 西岡伸紀, 鬼頭英明: ベトナム高校生の喫煙, 飲酒, 薬物乱用の実態と生活習慣に関する調査 2011(研究課題番号 21300244 平成 21~24 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究代表者勝野眞吾), 報告書, 岐阜薬科大学(平成 24 年)
- 6) 野崎加世子, 山之腰由香, 中川奈緒美, 中川みのり, 本間由佳里, 石原多佳子, 小林和成, 瀨瀨朋弥, 玉置真理子: 平成 24 年度 日本訪問看護振興財団訪問看護研究助成金: 新任時期の訪問看護育成プログラムの検討—育成プログラム開発とその試行— 報告書(平成 25 年)

11. 報道

- 1) 瀨瀨朋弥: 妊産婦と夫を対象とした禁煙サポートプログラムを郡上市と共同開発: 岐阜新聞(2013 年 11 月 9 日)
- 2) 地域看護学分野: 心と体を養う木製おもちゃ開発への支援協力: 岐阜新聞(2014 年 3 月 19 日)
- 3) 三好美浩: 酒や薬物 部活で抑制: 中日新聞(2014 年 11 月 5 日)

12. 自己評価

評価

地域看護分野では, 各々の研究テーマで外部資金を獲得している。さらに地域看護分野として岐阜大学の地域志向教育プロジェクトや地域活性化経費を利用し, 保健師教育に関わる研究を進めている。さらに他学部との共同研究にもかかわるなど研究活動においては評価できる。また個々の教員の研究についても, 専門の学会の優秀論文賞を受賞したり, 専門家としてシンポジストとして招聘されたり, 外部から高く評価されている。

学内の研究にとどまらず, 臨地の看護職との共同研究をする中で, 現場の看護の質の充実に貢献している。

現状の問題点及びその対応策

平成 24 年度入学生から保健師選択制になり, カリキュラムや授業内容, 実習内容等について実習施設のかたがたと調整しながら進めている。

保健師選択制の中で, 保健師希望者を拡大する必要があり, 研究を通じて保健師の魅力を広く発信し, さらには大学院に進学する学生の拡大をはかる必要がある。

今後の展望

教員各自が研究テーマをもって, 積極的に研究に取り組むこと, 加えて地域看護学分野としての共通した研究課題をもって, 研究活動をさらに活発化したい。

さらに, 他学部や他大学, さらに関係機関や地域住民を交えた, 視野の広い研究活動を行い, 地域の人々の真の豊かさや暮らしの質に還元できることを目指してゆく。

平成 24 年度入学生からの保健師選択制のもと, 教育活動において, より専門性高めるため, 公衆衛生看護学の実習展開の具体的方法を検討することを課題としている。

(2) 精神看護学分野

1. 研究の概要

精神看護学は様々な状況にある対象に対して、真摯に向き合える「態度」を身につけることを目的にしており、研究や学習を通して内容や方法を探求することと考えている。そのため対象である人を、生物学的・心理学的・社会的な側面から捉え、その対象にとって、本質的な支援とは何か、どのように提供するのか追求してきた。具体的な研究テーマとしては、精神機能の障害のために「生活能力」や「対人関係能力」に困難を抱える対象への援助を中心とした内容、広く現代の社会病理に関連したメンタルヘルスの問題、ストレスコーピングやコミュニケーション技術などに関する研究を行っている。

看護教育という点では、これらの研究が、学生の「対人関係を構築し維持する能力の向上」と「人間を深く理解していく力の向上」を意図し、人間的交流に基づいた丁寧な観察や個人の特性を踏まえて、そこで起こる現象を把握し、効果的なケアを追求する研究に取り組んでいる。また、大学院に関する内容としては、社会文化的な側面を踏まえて、研究対象者の地域性や臨床の特性を鑑み、看護師としてケア実践能力に繋がるような研究を行っている。

2. 名簿

教授：	奥村太志	Hutoshi Okumura
准教授：	杉浦浩子	Hiroko Sugiura
助教：	大平幸子	Sachiko Ohira

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 杉浦浩子, 他. 大津廣子, 小松万喜子編著. 看護師国試状況設定完全予想問題集 2015年版, 東京: 成美堂出版; 2014年.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 大平幸子, 奥村太志, 杉浦浩子. 新人教員が体験した精神看護学実習における教育的介入-患者の現状に即したアセスメント-, 日本精神科看護学会誌 2012年; 55巻: 40-44.
- 2) 下條美鈴, 伊納真由美, 寺村周康, 加藤洋一, 大野隆之, 加藤幸恵, 奥村太志. 急性精神病状態からの回復過程における看護アプローチ-非定型精神病患者の体験理解と寛解過程にもとづいたケアの検討-, 日本精神科看護学会誌 2012年; 55巻: 210-214.
- 3) 渡邊知也, 加藤直樹, 奥村太志. 性的逸脱行為を繰り返す統合失調症患者へのアプローチ-トククンエコノミー法による行動変容を試みて-, 日本精神科看護学会誌 2012年; 55巻: 266-270.
- 4) 井川恵美, 大平幸子, 奥村太志. 慢性統合失調症患者にとっての音楽療法の意味-, 日本精神科看護学会誌 2012年; 55巻: 256-260.
- 5) 乙村 優, 矢澤 徹, 佐川和代, 山田陽子, 奥村太志, 鈴木竜世. 抑うつ状態患者への集団音楽療法の体験-心拍のゆらぎと患者の行動面の観察と半構成的面接による内容の分析から-, 日本精神科看護学術集会誌 2012年; 55巻: 261-265.
- 6) 大平幸子, 加藤義弘, 箕浦文枝, 和田裕子, 奥村太志. 奥穂高岳中高年(前期高齢者)登山者の登山前後の精神面の影響-POMSを用いて-, 登山医学 2012年; 32巻: 136-140.
- 7) 新床美穂子, 曾我和恵, 杉浦浩子. ヒヤリハット報告の患者影響レベルを判定する「レベル判定フロー図」の作成とその有用性の検討, 地域医学 2012年; 26巻: 944-947.
- 8) 柘植美幸, 奥村志保子, 杉浦浩子. 集団面接から把握した新人看護師の問題解決思考の変化, 日本看護学会論文集: 看護管理 2012年; 42号: 42-45.
- 9) 今井田初実, 前濱景子, 都竹亜弥, 松井千尋, 杉浦浩子. 20代の終末期患者に対する同年代看護師の感情の動き, 日本看護学会論文集: 看護総合 2012年; 42号: 234-237.
- 10) 山中恵美子, 杉浦浩子, 奥村太志. 精神科長期入院患者の退院率に影響する要因の検討-岐阜県と三重県の比較から, 岐阜看護研究会誌 2012年; 4号: 31-41.
- 11) 深江茂美, 松田修, 大平幸子, 奥村太志: 一看護体制で2つの機能を有する病棟を担当する看護の現状-看護師が職務で抱くストレスの聞き取り調査から-, 日本精神科看護学会誌 2012年.

- 12) 井上英夫, 前田貴子, 大平幸子, 奥村太志. 治療抵抗性のある初回入院患者の看護 精神機能回復が進まない患者の退院をどのように理解するか, 日本精神科看護学術集会誌 2013年; 56巻: 258-259.
- 13) 杉山 猛, 川崎英夫, 大平幸子, 奥村太志. 精神科長期入院患者に対する退院支援の充実に向けて カンファレンスにアセスメントガイドを活用して, 日本精神科看護学術集会誌 2013年; 56巻: 217-221.
- 14) 加藤直樹, 山内善智, 早瀬奈美路, 大平幸子, 奥村太志. 慢性期精神障がい者のアセスメントとケアの現状 精神科慢性期病棟に勤務する看護師へのアンケート調査から, 日本精神科看護学術集会誌 2013年; 56巻: 212-216.
- 15) 柚原康幸, 大平幸子, 奥村太志. 療養者の視点で捉えた精神科外来看護師の役割-外来看護師が療養者の入院中から在宅まで継続的にかかわる支援, 日本精神科看護学術集会誌 2013年; 56巻: 87-91.
- 16) 板津多香子, 坂口美保子, 大平幸子, 奥村太志. 精神科長期入院患者に対する退院支援の現状と課題 事例検討と退院支援プログラムの学習を通じた看護師の認識の変化, 日本精神科看護学術集会誌 2013年; 56巻: 8-12.
- 17) 奥村太志, 大平幸子, 杉浦浩子, 秋江真弥, 兼松美秀. 急性精神病患者の回復に関わる看護師の患者理解の視点, 岐阜看護研究会誌 2013年; 5号: 51-57.
- 18) 長田登美子, 箕浦とき子, 足立久子, 杉浦浩子, 小松妙子. 臨地実習指導場面における看護教員の倫理的意識と倫理的行動の特徴, 岐阜看護研究会誌 2013年; 5号: 11-21.
- 19) 栗原浩子, 日下部加奈子, 河合美加, 杉浦浩子. 看護師の嚆下アセスメント能力向上に向けた学習会と嚆下機能評価表の作成・活用の成果-看護計画でのアセスメント能力の比較-, 日本看護学会論文集: 成人看護 I 2013年; 43号: 135-138.
- 20) 市川里恵子, 安藤恵美子, 足立節子, 杉浦浩子. 外来インスリン導入をした II 型糖尿病患者の導入に対する思い, 日本看護学会論文集: 成人看護 II 2013年; 43号: 75-78.
- 21) 木下亜伊, 奥村志保子, 上平直子, 杉浦浩子. 局所麻酔手術中に患者に生じる感情とその誘因について, 日本看護学会論文集: 成人看護 I 2013年; 43号: 11-14.
- 22) 河野裕子, 大坂望美, 藤田清美, 小椋みづえ, 大平幸子, 奥村太志. 認知症患者家族に対する看護師のコミュニケーションの実際 プロセスレコードの分析を通して見えてきたもの, 日本看護学会論文集: 精神看護 2014年; 44号: 82-85.
- 23) 土田和重, 宮川明浩, 大平幸子, 奥村太志. 臨界期・寛解前期患者に対応する患者理解とケアの現状, 日本精神科看護学術集会誌 2014年; 57巻: 566-567.
- 24) 松波秀幸, 馬淵正務, 大平幸子, 奥村太志. 看護ケアに対する入院患者の満足度調査, 日本精神科看護学術集会誌 2014年; 57巻: 332-333.
- 25) 山内博文, 佐分利由紀子, 市川昌代, 伊納真由美, 大平幸子, 奥村太志. 急性期精神病状態で初回入院した患者の家族への看護支援, 日本精神科看護学術集会誌 2014年; 57巻: 172-173.
- 26) 米重友也, 野々村圭一, 大平幸子, 奥村太志. 精神疾患患者の行動制限最小化に向けた取り組み 開放観察評価シートの作成の(第1報), 日本精神科看護学術集会誌 2014年; 57巻: 25-29.
- 27) 森谷奈美子, 深井浩二, 須藤真由, 大平幸子, 奥村太志. 理不尽な言動のある境界性パーソナリティ障害患者の看護, 日本精神科看護学術集会誌 2014年; 57巻: 265-269.
- 28) 西尾朝江, 杉浦浩子, 遠山圭子. 誤嚥性肺炎患者の看護手順の作成とそれを用いて看護介入を行った看護師の意識変化, 日本看護学会論文集: 成人看護 II 2014年; 44号: 145-148.
- 29) 林やよい, 杉浦浩子. 看護師が実施している血液培養採血時の皮膚消毒時間とその感覚, 日本看護学会論文集: 看護総合 2014年; 44号: 278-281.
- 30) 安田ひろみ, 末松有美江, 曾我和恵, 杉浦浩子. 看護業務内容および超過勤務に対する意識からみた超過勤務発生要因の検討, 日本看護学会論文集: 看護管理 2014年; 44号: 141-144.
- 31) 杉浦浩子, 曾我祐子, 杉浦春雄. 看護学生における楽観性・悲観性の違いが認知的評価に与える影響, 健康レクリエーション研究 2014年; 10号: 43-56.
- 32) 杉浦浩子, 小森美咲, 杉浦春雄. 大学生における楽観性とストレス認知との関連, 健康レクリエーション研究 2014年; 10号: 33-41.
- 33) 上平直子, 奥村志保子, 杉浦浩子. 手術室環境の観察における看護師の危険予知に関連した目的意識の分析, 日本看護学会論文集: 成人看護 I 2014年; 44号: 46-49.
- 34) 広瀬貴大, 高木真希, 久世美樹, 杉浦浩子. 急性期病院において退院調整の必要な患者の家族が退院先を決定するまでの思い, 日本看護学会論文集: 地域看護 2014年; 44号: 67-70.
- 35) 伊藤信子, 大野明子, 西尾穂波, 杉浦浩子. 認知症患者の行動障害の理解による病棟スタッフの感情・思考、言葉、行為の変化, 日本認知症ケア学会誌 2014年; 13巻: 512-520.

原著 (欧文)
なし

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 代表者: 杉浦浩子, 連携研究者: 奥村太志, 大平幸子; 科学研究費補助金基盤研究(C): 对患者コミュニケーションにおける「聴く技術の自己評価ツール」の開発; 平成 25-27 年度; 3,400 千円(2,100: 700: 600 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

奥村太志：

- 1) 日本精神保健学会評議員

大平幸子：

- 1) 日本登山医学会評議員

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

奥村太志：

- 1) 精神保健学会京都大会(平成 25 年 6 月，京都 座長)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 奥村太志，大平幸子：第 45 回日本看護学会 精神看護 優秀論文賞(平成 26 年度)

9. 社会活動

奥村太志：

- 1) 看護職員確保対策連絡協議会委員(岐阜県ナースセンター)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

3名の構成員でありながら、看護学科の運営に関する諸活動、精神看護学に関連する教育・研究活動、対外的な活動を精力的に行ってきた。研究においては、科学研究費補助金基盤研究(C)を獲得したほか、複数の臨床で研究を支援・協働し、多くの成果を上げることができた。また、教育においては、学部生への臨地実習指導、卒業研究指導に加えて、毎年、大学院生を受け入れ、そして着実に修了させることができている。年々、学科運営に携わる時間が増え、臨地実習指導に費やす時間も多い中で、研究、教育ともに一定の成果を上げていると自己評価する。

現状の問題点及びその対応策

学科運営に携わる時間が増え、臨地実習指導に多くの時間を費やす中で、大学院教育にも携わっているため、現在は個々に時間を調整して研究を進めている。そのため、以前から課題としていた分野として研究に取り組む体制づくりは未だ実現できていない。研究の質と効率性を高めることを考えると、可

及的早急に、分野としての研究課題をもち、取り組んでいくことが必要である。

今後の展望

現在行っている臨床との共同研究をさらに発展させるとともに、分野としての研究課題を持ち、精力的に研究活動をおこなっていきたい。

